共 通 教 育

「学生による授業評価」ならびに「教員のFD活動レポート」

報　告　書

平成18年度（前学期）

平成19年３月

宮　崎　大　学

平成 18 年度（前学期）
共通教育「学生による授業評価」ならびに
「教員の FD 活動レポート」報告書の刊行にあたって

宮崎大学の共通教育は平成 16 年度にスタートしましたが、早くも 3 年目が終わろうとしています。この間、全学出動体制の下、全学教員の協力によって支えられ、実施されてきており、今日に至っています。

共通教育部自己点検・評価委員会は、共通教育部に設けられている組織で、共通教育の点検・評価とそれに基づく共通教育の改善を審議することを任務としており、具体的な活動の一つとして、毎学期末に「学生による授業評価アンケート」と「教員の FD 活動レポート」を実施し、平成 16 年前・後学期、平成 17 年前・後学期の計 4 期について報告書を刊行してきました。

本報告書はこれらに続くもので、通算すると 5 冊目となります。本報告書の授業評価アンケートや FD 活動レポートにおける質問項目は、年次・学期間の比較を行うため、これまでの報告書とほぼ同じとしていますが、今回は新たに「教員の FD 活動レポート」において、「学生による授業評価結果の公表」に関する質問項目を加え、また、「情報処理入門」でアンケートの Web 入力を試行しました。取りまとめの方法や内容も平成 17 年度後学期に関する報告書とほぼ同じですが、今回の報告書には「情報処理入門」における Web 入力試行実施結果の概要と、「学生による授業評価結果の公表」についての教員へのアンケート集計結果および意見の掲載を加えています。

本報告書は、受け手である学生の学習状況や意識および担い手である教員の取り組みや意識を把握する上で非常に有益であり、宮崎大学の共通教育の現状に関する資料として貴重なものです。これまでの 4 つの報告書と合わせて、本報告書が充分に活用され、共通教育が更に充実し、発展することを切望します。

最後に、授業評価および FD 活動レポートにご協力いただいた授業担当教員各位に深く感謝申し上げます。

平成 19 年 3 月

共通教育部自己点検・評価委員会
委員長　甲斐　重貴

目　次

第1章　実施の記録・調査票・結果報告書・FD活動レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2章　評価結果の分析 ・・・ 6

【1】全科目の平均について ・・ 6

【1-1】全科目平均の動向 ・・ 7

【2】科目群ごとの分析・・・ 9

【2-1】科目群ごとの平均、および全体との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

【2-2】前年同学期との比較　・・・ 12

【2-3】科目単位でみた分布 ・・ 15

第3章　教員によるFD活動レポート ・・・ 24

【1】学生による評価と教員の自己評価の比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

【2】教員のFD活動レポート ・・ 27

【2-1】日本語コミュニケーション ・・・ 28

【2-2】情報科学入門・・ 29

【2-3】英語・・ 31

【2-4】コミュニケーション英語 ・・・ 33

【2-5】健康スポーツ科学 ・・ 35

【2-6】主題教養科目 ・・ 36

【2-7】選択教養科目・専門基礎科目 ・・ 39

第4章　科目ごとのデータ一覧・・・ 42

第5章　18 年度からの新たな取り組み・・・ 54

【5-1】WEB 入力による授業評価アンケートの一部実施（「情報科学入門」） ・54

【5-2】授業評価結果の公開の是非について（教員へのアンケート結果） ・・・・・・57

第6章　本調査の今後の課題・・・ 64

「共通教育部自己点検・評価委員会」委員名簿 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

第1章　実施の記録・調査票・結果報告書・FD活動レポート

平成18年度前学期の共通教育科目に関する「学生による授業評価」及び「教員のFD活動レポート」は次のように実施された。

実施時期	平成18年（2006年）７月３日（月）～７月１４日（金）の授業期間中。
対象科目	すべての共通教育科目（238科目）。但し、医学部独語及び集中講義を除く。
実施方法	実務は学務部教務課と大学教育研究企画センター（武方壮一助教授）が担当し、各科目の登録学生数に応じた枚数の調査票をあらかじめ用意し各教員に配布した（但し、「情報科学入門」は、後述の通り試行的にWeb入力により実施した）。各教員は授業時間内に学生に調査票を配布して調査を実施し、ただちに回収した。その後、大学教育研究企画センター（同上）が集計作業を行った。
回収率	96％（238科目中、229科目を回収した。）
返却	各教員には調査票の現物とともに「結果報告書」を返却した。
FD活動レポート	FD活動レポートは、今回から常勤教員は原則Webによる入力に切り替えた。非常勤教員に関しては従来通りに所定用紙を配布し、記入の後、学生用調査票とともに提出して貰った。その後、「学生による授業評価」アンケートと同様に大学教育研究企画センター（武方壮一助教授）が集計作業を行った。 提出率は85％（238科目中、203科目分のFD活動レポートが提出された。）
報告	すべての科目の集計結果（生データ）は共通教育部自己点検・評価委員会に報告され、報告書は当該報告に基づき同委員会報告書作成WGが作成した。更に、報告書は同委員会に上程され、最終的に了承された。

※調査票・結果報告書・FD活動レポートの現物を次ページ以降に掲載した。なお、実際には、「科目コード」「授業科目」「担当教員」の〇〇の部分には各教員名及び授業名等のデータがあらかじめ記入されている。

「学生による授業評価」調査票（共通教育）

共通教育部自己点検・評価委員会

記入にあたっては、真剣に、かつ、率直な評価をしてください。この調査を教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ります。なお、この調査とあなたの成績とは一切関係ありません。

科目ｺｰﾄﾞ：○　○　○　　授業科目：○　○　○　　担当教員：○　○　○

達成目標：○○○することを通して○○○できるようになる。

Ⅰ．質問項目：

A：受講・勉学態度等に関して

1　私（回答者自身）は７５％以上授業に出席した。

2　私（回答者自身）は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
予習や復習／重要事項の書き留め／課題の提出／授業内・外での教師への質問（オフィスアワーの活用）、等

3　私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B：担当教員の教授技法や授業内容等に関して

4　授業はシラバスに沿って行われた。

5　授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。

6　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

7　重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。

8　学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。

9　授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C：その他

10　クラスサイズ（受講生数）は適切だった。

11　学習環境は適切だった。
教室の照明／空調／机・椅子などの備品の状態、等

D：総合的な授業評価

12　この授業は満足できるものだった。

Ⅱ．回答欄：

所 属 等：□□□□　学籍番号のはじめの4ケタを記入してください。

次の4段階評価に従って、最も適切な数字（④～①）を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。
④：あてはまる　③：ややあてはまる　②：あまりあてはまらない　①：あてはまらない

		マーク欄				自由記述欄（左の項目に関連した意見や感想）
A	1	④	③	②	①	
	2	④	③	②	①	
	3	④	③	②	①	
B	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
	9	④	③	②	①	
C	10	④	③	②	①	
	11	④	③	②	①	
D	12	④	③	②	①	

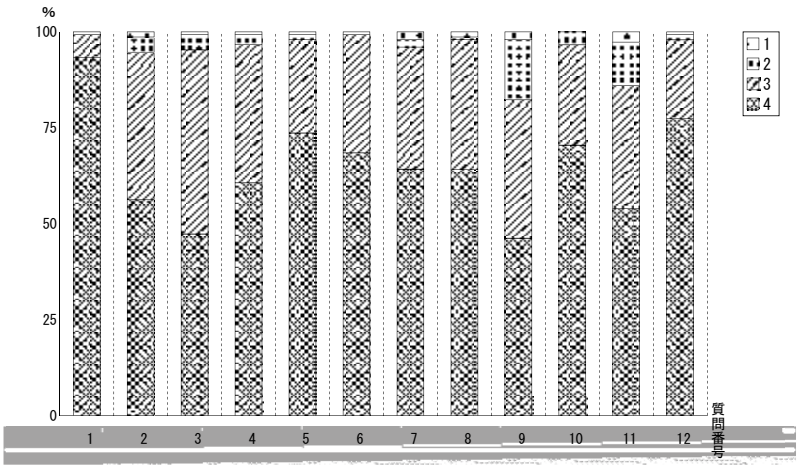
Ⅲ．その他、この授業について、よかったこと、改善を求めたいこと、等の意見や感想を自由に述べてください。

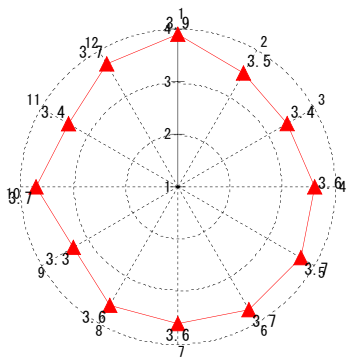
「学生による授業評価」の結果報告書

科目コード	○ ○ ○	科目区分	共通教育		
授業科目	○ ○ ○				
担当教官	○ ○ ○	実施時期	平成18年度 前学期	回答者数	150

Ⅰ. 集計結果

No.	質問項目	4	3	2	1	合計
1	私(回答者自身)は75%以上授業に出席した。	139	9		1	149
2	私(回答者自身)は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。	85	58	6	2	151
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した。	71	72	6	1	150
4	授業はシラバスに沿って行われた。	91	54	4	1	150
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	109	36	2	1	148
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	102	46		1	149
7	重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。	97	48	3	3	151
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	95	50	1	2	148
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	68	53	23	3	147
10	クラスサイズ(受講生数)は適切だった。	105	39	5		149
11	学習環境は適切だった。	81	48	17	4	150
12	この授業は満足できるものだった。	113	30	2	1	146
		1156	543	69	20	1788





Ⅱ. 受講生の授業評価を受けて、分かったこと、感想、改善すべきことなど
回答用紙で確認ください。

「共通教育担当教員FD活動レポート」

共通教育部自己点検・評価委員会

この調査は教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ることを目的としています。記入にあたっては、各授業科目毎に率直に自分の授業を点検してください。

科目ｺｰﾄﾞ: ○　○　○　　授業科目:○　○　○　　担当教員: ○　○　○

Ⅰ. 質問項目:　　回答者名: (　　)

A: 授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検してください。

1　シラバスに沿って授業を行えた。

2　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

3　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。

4　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

5　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

6　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

7　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

8　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

B: FD活動についてお尋ねします。

9　この授業科目に関してこの１年間取り組んだFD活動を選んでください。（複数回答可）
①他教員の授業参観　②学内外のFD講演会等への参加　③他大学のFD活動の視察　④その他

10　今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。（複数回答可）
①他教員の授業参観　②学内外のFD講演会等への参加　③他大学のFD活動の視察　④その他

注: 学内外のFD講演会等への参加、他大学のFD活動の視察及びその他予算措置の必要な企画については予算措置が講じられます。別途ご案内します。

Ⅱ. 回答欄:

1～8について: 次の4段階評価に従って、最も適切な数字(④～①)を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

④:あてはまる　③:ややあてはまる　②:あまりあてはまらない　①:あてはまらない

9～10について: 質問に対応する適切な数字を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

		マーク欄				自由記述欄(左の項目に関連した意見や感想)
A	1	④	③	②	①	
	2	④	③	②	①	
	3	④	③	②	①	
	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
B	9	①	②	③	④	④の場合具体的に:
	10	①	②	③	④	④の場合具体的に:

Ⅲ. 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

自己点検・評価委員会において、今後の検討事項として先生方の意向を伺い、検討をすすめて行きたいと思いますのでご協力をお願いします。

Ⅳ. 質問項目:

「学生による授業評価」やこれまでにおこなった「卒業生へのアンケート」では、授業評価の結果を改善につなげて欲しいという要求が強くあります。そのための一つの方策として、個々の授業評価の結果を公表することが考えられます。先生方のご意見をお聞かせください。

1　「学生による授業評価」の公表についてお尋ねします。

①:公表した方がよい　②:公表しない方がよい　③:どちらとも言えない

2　問１で「公表した方がよい」と回答した方にお尋ねします。その理由をお聞かせください。

3　問１で「公表しない方がよい」と回答した方にお尋ねします。その理由をお聞かせください。

4　学生・教員のニーズを改善につなげるための方策としてご提案や意見がありましたらお聞かせください。

Ⅴ. 回答欄:

1について: 最も適切な数字(①～③)を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

2～4について: ご意見をお聞かせください。

1	①	②	③	
2				
3				
4				

第2章　評価結果の分析

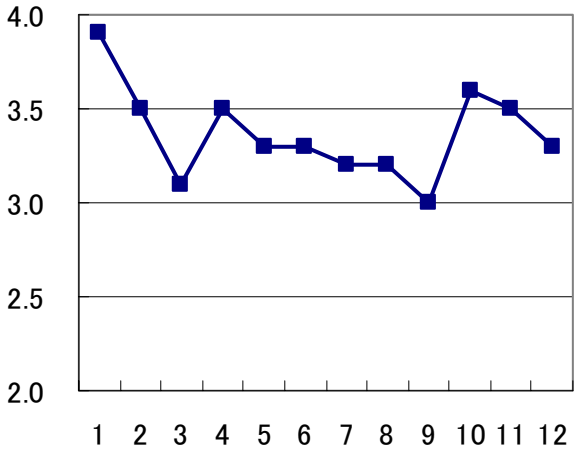
【1】全科目の平均について

すべての共通教育科目（全238科目のうち回収された229科目）について、質問項目ごとに評価点の平均を計算すると次の通りである（小数第2位以下は四捨五入）。

質問項目	学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全科目の平均	3.9	3.5	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.6	3.5	3.3

評価は「4:あてはまる。3:ややあてはまる。2:あまりあてはまらない。1:あてはまらない。」の4段階で行われている。

上の表をグラフにすると右の通りである。横軸は質問項目を、縦軸は評価点の平均を示している。



（※縦軸の評価２未満の目盛は割愛した。）

質問は以下の12項目である。

A:回答者（学生）自身について

1　私は75%以上授業に出席した。

2　私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。

3　私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B:担当教員の教え方について

4　授業はシラバスに沿って行われた。

5　授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。

6　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

7　重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。

8　学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。

9　授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C:その他

10　クラスサイズ（受講生数）は適切だった。

11　学習環境は適切だった。

D:総合的な授業評価

12　この授業は満足できるものだった。

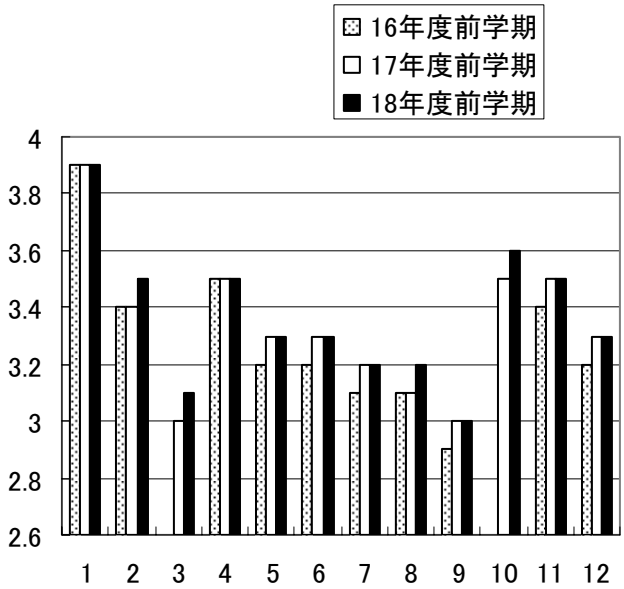
【1-1】全科目平均の動向

16年度からの各学期において、これまで、すべての科目を対象に学生による授業評価が実施されている。そこで、この2年半の間にどれほどの改善がなされたかをみるために、評価点の平均の動向を整理したものが下の図表である（注：16年度は質問3と質問10は設けていなかったので、下表では空欄にしてあるとともに、下図ではデータ無しとなっている）。

質　問　項　目	学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
16年度前学期	3.9	3.4		3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9		3.4	3.2
16年度後学期	3.9	3.4		3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	3.0		3.5	3.3
17年度前学期	3.9	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.5	3.5	3.3
17年度後学期	3.9	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5
18 年度前学期	3.9	3.5	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.6	3.5	3.3

○同学期との比較

17年度前学期と今回の結果を比較すると、評価が下がった項目は無く、12項目中4項目において、学生の評価が0.1ポイント上がっている。その4項目とは、「学生自身」の評価である質問2、3と、「教員の教え方」のうちの質問9、「学習環境」のうちの質問10である。そして、残りの8項目は横ばいとなっている（なお、本報告書における評価点はすべて、小数第二位以下は四捨五入していることには留意されたい）。



同学期どうしで比較した場合（かつ小数第一位まででみた場合）、12項目中下がった項目が1つもみられないのは評価されよう。ただし、3分の2の項目、具体的には「教員の教え方など」に関する6項目（質問4～9）のうちの5項目や、質問12（総合満足度）が横ばいである。

このことは、教育の改善（特に教え方）に関して、決して「後退」はしていないものの、向上も十分にはしきれていないことを示唆している。特に、質問5～8の4項目（「教員の教え方」に直接関わる項目）や、「総合満足度」における3.2～3.3という評点については、「これで妥当」とみるべきか、あるいは「さらに改善の余地あり」とみるべきか、評価が分かれるところであろう。

しかしながら、あくまでも全体平均でみた場合の話であるが、前年同学期と今回とは、学生の評価が概ね横ばいであるという事実は承知しておく必要がある。

なお、質問3（到達目標に達したかどうかに関する学生自身の評価）は、前年より0.1ポイント上がっているものの3.1ポイントにとどまっていることも記しておきたい。

○2年半における動向

法人化直後の16年度前学期と今回（18年度前学期）の結果を比較すると、やはり下がった項目は無く、10項目中8項目において、各々0.1ポイント上がっている。このことは、2年半という期間でみれば、共通教育に対する学生の評価が上がっていることを示している。

しかしながら、質問9（「予習・復習や発展学習を課した」）の評価点は、16年度前学期より0.1ポイント上がってはいるものの、質問項目のなかで一番低い3.0にとどまっている。前回の報告書（17年度後学期の報告書）でも述べたが、自学自習促進のための指導に関しては、科目ごとの必要性の有無や具体的方法の検討と併せて、改善の余地があると思われる。

また、学期間でみた場合、後学期に比べて前学期の評価が低い傾向にあることは前回の報告書で述べたところであるが、今回も同様の結果となった。すなわち、今回（18年度前学期）と17年度後学期とを比べると、12項目中上がった項目は無く、実に9項目において下がっている。特に、「教員の教え方など」や「総合満足度」に該当する項目はすべてそうである。授業科目（の性質）や担当教員の違いが影響しているものと思われるが、この具体的な原因や次年度以降の動向については引き続き検証していく必要があろう。

以上の結果を改めて整理すると、以下の通りである。

2年半における動向をみると、「教員の教え方」を中心に学生の評価は上がっている。

しかしながら、前年同学期と比較すると、評価が概ね横ばいである。

また、学期間で比較すると、後学期より前学期の評価が低い。

以上の点を踏まえ、今後さらに検討を進めていく必要がある。

【2】科目群ごとの分析

【2-1】科目群ごとの平均、および全体との比較

共通教育科目を17の科目群に分類した場合の評価点の平均は次の通りである。なお、かっこ内の科目数は開講科目数ではなく、授業評価が提出された科目数である。

太字の値は「全科目平均」と比べて 0.2 ポイント以上高いことを、他方、網掛けの値は「全科目平均」と比べて 0.2 ポイント以上低いことを示している（±0.1 ポイント以内は、そのままにしてある）。

なお、「初修外国語」は、通年を通しての評価とし、前期での授業評価は原則として実施していないため、今回の報告書には該当しない。

質問項目		学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全科目平均		3.9	3.5	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.6	3.5	3.3
大学教育基礎科目	(1)日本語コミュニケーション(26 科目)	4.0	**3.7**	3.2	3.5	**3.5**	**3.5**	**3.4**	3.2	3.1	3.7	3.6	3.4
	(2)情報処理入門(20 科目)	4.0	3.6	**3.3**	3.6	3.2	3.2	3.0	3.0	2.9	3.7	3.6	3.3
	(3)英語(31 科目)	3.9	3.4	2.9	3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	**3.2**	3.7	3.6	3.3
	(4)コミュニケーション英語(28 科目)	4.0	3.5	3.0	3.6	**3.6**	**3.5**	**3.4**	**3.4**	**3.4**	3.7	**3.7**	**3.5**
	(5)保健体育科目(25 科目)	3.9	**3.7**	**3.5**	**3.7**	**3.6**	**3.5**	**3.4**	**3.4**	2.9	3.5	3.5	**3.6**
主題教養科目	(6)現代の社会と倫理(4 科目)	3.9	3.5	**3.3**	3.6	3.4	3.3	3.2	3.2	2.8	3.4	3.5	3.3
	(7)人間と文化(10 科目)	3.9	3.1	2.9	3.3	2.9	2.9	2.7	2.7	2.5	3.3	3.3	2.9
	(8)現代社会の課題(9 科目)	3.9	3.2	3.0	3.5	3.3	3.2	3.1	3.0	2.6	3.4	3.5	3.2
	(9)自然と生命(22 科目)	3.9	3.2	2.9	3.5	3.1	3.2	3.0	2.8	2.9	3.4	3.4	3.0
選択教養科目	(10)文化・社会系(11 科目)	3.8	3.3	3.0	3.5	3.2	3.0	3.1	3.1	2.8	3.3	3.4	3.2
	(11)科学・技術系(12 科目)	3.8	3.2	2.8	3.4	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	3.4	3.4	2.9
	(12)生命科学系(7 科目)	3.8	3.3	3.1	3.5	3.1	3.3	3.2	3.2	2.8	3.5	3.5	3.3
	(13)複合・学際系(3 科目)	4.0	**3.8**	**3.6**	**3.7**	**3.8**	**3.7**	**3.6**	**3.5**	**3.2**	3.6	**3.7**	**3.6**
	(14)生涯学習系(5 科目)	3.9	3.6	**3.5**	3.6	**3.6**	**3.6**	**3.4**	**3.5**	3.0	3.2	3.3	**3.5**
	(15)外国語系(8 科目)	3.9	3.6	3.1	3.6	3.4	3.4	3.3	3.3	**3.4**	3.6	**3.7**	**3.5**
(16)専門基礎科目(3 科目)		3.9	3.6	**3.4**	**3.7**	**3.5**	**3.6**	**3.4**	**3.5**	**3.3**	3.6	**3.7**	**3.6**
(17)日本語・日本事情(5 科目)		3.7	3.5	3.5	**4.0**	**3.8**	**3.6**	**3.6**	**3.7**	**3.5**	3.6	**4.0**	**3.5**

科目群ごとに全体（全科目平均）と比較すると、次の通りである（前頁表を参照）。

1)大学教育基礎科目

- 「日本語コミュニケーション」は、「学生自身」の質問2（真剣な態度で取り組んだ）、及び「教員の教え方」の質問5～7において、全科目平均より0.2ポイント高い。
- 「情報処理入門」は、「学生自身」の質問3（「到達目標」に到達した）において全科目平均より0.2ポイント高い一方、「教員の教え方」の質問7、9において、逆に0.2ポイント以上低い。
- 「英語」は、質問3（0.2ポイント低い）と質問9（0.2ポイント高い）を除いて、全科目平均とほぼ同程度の評価である。
- 「コミュニケーション英語」は、質問5～9、11、及び12（総合満足度）の7項目において、全科目平均より0.2ポイント以上高い。
- 「保健体育科目」は、質問2～8、及び12の8項目において0.2ポイント以上高い。

2)主題教養科目

- 「現代の社会と倫理」は、4科目のみの平均であるが、質問3（0.2ポイント高い）と質問9、10（0.2ポイント低い）を除いて、全科目平均とほぼ同程度の評価である。
- 「人間と文化」は、質問1を除く11項目において、全科目平均より0.2ポイント以上低い。
- 「現代社会の課題」は、質問2、8～10の4項目において、全科目平均より0.2ポイント以上低い。
- 「自然と生命」は、質問7、8、12等の7項目において、全科目平均より0.2ポイント以上低い。

3)選択教養科目

- 「文化・社会系」は、質問2、6、9、10の4項目において、全科目平均より0.2ポイント以上低い。
- 「科学・技術系」は、質問1、4、11を除く9項目において、全科目平均より0.2ポイント以上低い。
- 「生命科学系」は、質問5、9（0.2ポイント低い）を除いて、全科目平均とほぼ同程度の評価である。
- 「複合・学際系」は、3科目のみの平均であるが、質問1、10を除く10項目において、全科目平均より0.2ポイント以上高い。
- 「生涯学習系」は、5科目のみの平均であるが、「学習環境」（質問10、11）の2項目において全科目平均より0.2ポイント以上低いものの、質問3、5～8、及び12の6項目において0.2ポイント以上高い。
- 「外国語系」は、質問9、11、12の3項目において、全科目平均より0.2ポイント以上高い。

4)専門基礎科目、日本語科目

- 「専門基礎科目」は、3科目のみの平均であるが、質問1、2、10を除く9項目において、全科目平均より0.2ポイント以上高い。
- 「日本語・日本事情」は、受講生が1～4名という限定されたなかでの評価であるが、「教員の教え方」(質問4～9)や12等の8項目において、全科目平均より0.2ポイント以上高い。

平均でみれば、全科目平均より評価が高い科目群と、逆に低い科目群、及び同程度の評価の科目群に分かれる。

評価が概ね高い科目群は、「大学教育基礎科目」では、「情報処理入門」や「英語」を除く群、及び「外国語系」である。また、科目数が少ないなかでの評価であるが、「選択教養科目」のうちの「複合・学際系」、「生涯学習系」、及び「専門基礎科目」、「日本語・日本事情」も評価が高い。

他方、評価が概ね低い科目群は、「現代の社会と倫理」を除く「主題教養基礎科目」や、「選択教養科目」のうちの「文化・社会系」、「科学・技術系」である。

なお、項目により若干の高低はあるが、「情報処理入門」、「英語」、「現代社会の倫理」、「生命科学系」は、全科目平均と概ね同程度の評価になっている。

【2-2】前年同学期との比較

次に、科目群ごとに前年（平成17年度）前学期と比較する。ただし、受講生が極めて少ない「日本語・日本事情」は割愛する。

なお、同学期同士であっても各群ともに開講科目とその数に若干の増減があるので、必ずしも厳密な比較になり得ないことは申し添えておきたい。

以下、評価が上がった項目には★を、下がった項目には▽をつける。

①大学教育基礎科目

			学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
質問項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
大学教育基礎科目	(1) 日本語コミュニケーション	17前	4.0	3.6	3.2	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	3.2	3.7	3.5	3.3
		18前	4.0	★ 3.7	3.2	3.5	★ 3.5	★ 3.5	★ 3.4	3.2	▽ 3.1	3.7	★ 3.6	★ 3.4
	(2) 情報処理入門	17前	4.0	3.6	3.3	3.6	3.2	3.3	3.2	3.2	3.1	3.7	3.7	3.4
		18前	4.0	3.6	3.3	3.6	3.2	▽ 3.2	▽ 3.0	▽ 3.0	▽ 2.9	3.7	▽ 3.6	▽ 3.3
	(3) 英語	17前	3.9	3.3	2.9	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.1	3.7	3.6	3.3
		18前	3.9	★ 3.4	2.9	3.5	★ 3.4	3.3	3.2	★ 3.2	★ 3.2	3.7	3.6	3.3
	(4) コミュニケーション英語	17前	4.0	3.4	2.9	3.5	3.5	3.5	3.4	3.3	3.3	3.7	3.6	3.4
		18前	4.0	★ 3.5	★ 3.0	★ 3.6	★ 3.6	3.5	3.4	★ 3.4	★ 3.4	3.7	★ 3.7	★ 3.5
	(5) 保健体育科目	17前	4.0	3.8	3.5	3.7	3.7	3.8	3.6	3.6	2.9	3.5	3.2	3.8
		18前	▽ 3.9	▽ 3.7	3.5	3.7	▽ 3.6	▽ 3.5	▽ 3.4	▽ 3.4	2.9	3.5	★ 3.5	▽ 3.6

「日本語コミュニケーション」、「英語」、「コミュニケーション英語」においては、項目数の差はあるが、一般に評価が上がっている。

一方、「情報処理入門」は、逆に評価の下がった項目が多く、特に質問7～9において前年より0.2ポイント下がっている。

また、「保健体育科目」も評価の下がった項目が多いとはいえ、8項目において全科目平均より評価が高い。なお、本科目群は、前年に授業評価のなされたのが5科目のみであったことから、前年と単純には比較することはできないであろう。

大学教育基礎科目の評価は、科目群毎に違いがあり、
評価結果の上昇・下降を一概には判断できない。

②主題教養科目

			学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
質問項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
主題教養科目	(6)現代の社会と倫理	17前	3.9	3.2	3.0	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	2.6	3.1	3.1	3.2
		18前	3.9	★ 3.5	★ 3.3	★ 3.6	★ 3.4	3.3	3.2	3.2	★ 2.8	★ 3.4	★ 3.5	★ 3.3
	(7)人間と文化	17前	3.9	3.2	2.8	3.2	2.9	2.9	2.7	2.9	2.4	3.2	3.5	3.0
		18前	3.9	▽ 3.1	★ 2.9	★ 3.3	2.9	2.9	2.7	▽ 2.7	★ 2.5	★ 3.3	▽ 3.3	▽ 2.9
	(8)現代社会の課題	17前	3.9	3.1	2.9	3.4	3.3	3.1	3.1	3.0	2.6	3.4	3.6	3.1
		18前	3.9	★ 3.2	★ 3.0	★ 3.5	3.3	★ 3.2	3.1	3.0	2.6	3.4	▽ 3.5	★ 3.2
	(9)自然と生命	17前	3.9	3.2	2.8	3.5	3.1	3.1	3.0	2.8	2.8	3.4	3.3	3.1
		18前	3.9	3.2	★ 2.9	3.5	3.1	★ 3.2	3.0	2.8	★ 2.9	3.4	★ 3.4	▽ 3.0

「現代の社会と倫理」では下がった項目は無く、8項目において評価が上がっており、かつ、質問2、3、9～11では0.2ポイント以上、上がっていること注目される。ただ、前述したように、本科目群は4科目のみの平均であることに留意が必要であろう。

その他の3つの科目群では、4～5項目において評価が上がっているが、「人間と文化」では同時に4項目の評価が下がっている。ただ、これら3科目群は、他の科目よりは、変化が比較的少ないことが特徴といえる。

主題教養科目の評価は、「現代の社会と倫理」において上がっているほかは、変化が比較的少ない。

③選択教養科目・専門基礎科目

			学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
質問項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
選択教養礎科目	(10)文化・社会系	17前	3.9	3.3	3.0	3.5	3.1	3.0	3.0	3.0	2.6	3.3	3.5	3.1
		18前	▽ 3.8	3.3	3.0	3.5	★ 3.2	3.0	★ 3.1	★ 3.1	★ 2.8	3.3	▽ 3.4	★ 3.2
	(11)科学・技術系	17前	3.9	3.2	2.9	3.3	3.0	3.1	3.0	3.0	2.5	3.4	3.4	3.1
		18前	▽ 3.8	3.2	▽ 2.8	★ 3.4	▽ 2.9	▽ 2.9	▽ 2.8	▽ 2.8	★ 2.7	3.4	3.4	▽ 2.9
	(12)生命科学系	17前	3.9	3.1	2.9	3.4	3.0	3.1	3.0	2.9	2.6	3.5	3.4	3.0
		18前	▽ 3.8	★ 3.3	★ 3.1	★ 3.5	★ 3.1	★ 3.3	★ 3.2	★ 3.2	★ 2.8	3.5	★ 3.5	★ 3.3
	(13)複合・学際系	17前	3.9	3.5	3.3	3.8	3.5	3.6	3.5	3.4	2.9	3.7	3.6	3.5
		18前	★ 4.0	★ 3.8	★ 3.6	▽ 3.7	★ 3.8	★ 3.7	★ 3.6	★ 3.5	★ 3.2	▽ 3.6	★ 3.7	★ 3.6
	(14)生涯学習系	17前	3.9	3.6	3.4	3.7	3.7	3.5	3.4	3.4	2.7	3.6	3.6	3.6
		18前	3.9	3.6	★ 3.5	▽ 3.6	▽ 3.6	★ 3.6	3.4	★ 3.5	★ 3.0	▽ 3.2	▽ 3.3	▽ 3.5
	(15)外国語系	17前	3.6	3.3	3.0	3.5	3.2	3.2	3.0	3.0	3.1	3.4	3.4	3.2
		18前	★ 3.9	★ 3.6	★ 3.1	★ 3.6	★ 3.4	★ 3.4	★ 3.3	★ 3.3	★ 3.4	★ 3.6	★ 3.7	★ 3.5
(16)専門基礎科目		17前	3.8	3.4	3.2	3.6	3.3	3.4	3.4	3.3	3.2	3.5	3.6	3.4
		18前	★ 3.9	★ 3.6	★ 3.4	★ 3.7	★ 3.5	★ 3.6	3.4	★ 3.5	★ 3.3	★ 3.6	★ 3.7	★ 3.6

選択教養科目、専門基礎科目においては、項目数の差はあるが、「科学・技術系」、「生涯学習系」を除く科目群において、評価が上がっている項目が多い。特に、「外国語系」ではすべての項目において、「専門基礎科目」では11項目において評価が上がっていること、また、「生命科学系」と「外国語系」の「総合満足度」が0.3ポイントも上がっていることは注目される。

他方、「科学・技術系」では、「教員の教え方など」や「総合満足度」等の7項目において評価が下がっている。

なお、前述したように、「複合・学際系」、「生涯学習系」、「専門基礎科目」は、3～5科目のみの平均であることに留意が必要であろう。

選択教養科目、専門基礎科目においては、「科学・技術系」等を除いて概ね評価は上がっている。

【2-3】科目単位でみた分布

平均でみた科目群ごとの特徴は以上の通りであるが、当然ながら、同一科目群の中でも科目により評価に違いがある。では、科目別にみた場合、評価点はどのような分布をしているのか。前回の17年度後学期報告書と同様に、今回の報告書においても科目単位での分布をみていくことにしよう。

下の表は、学生の「総合満足度」を示す質問12と各項目との相関係数(単相関)を計算したものである。授業自体の「教え方」に関する項目との相関係数が特に高く、これは 17 年度後学期における計算結果とほぼ同様となった。従って、「わかりやすさ」や「意欲・好奇心を掻き立てる教え方」を行うことが学生の「総合満足度」の向上につながることが、今回の結果からも改めて示唆される(各質問項目の内容は5頁を参照)。

「総合満足度」(質問12)と各項目との相関係数(平成18年度前学期)

学生自身			教員の教え方など					
1	2	3	4	5	6	7	8	9
0.262	0.622	0.620	0.638	0.800	0.858	0.843	0.883	0.564

学習環境		複数項目の平均			
10	11	1-3平均	4-9平均	10-11平均	全項目平均
0.404	0.425	0.664	0.889	0.457	0.916

そこで以下、前回の報告書と同様に、「総合満足度」(質問 12)と「教員の教え方」の平均値(質問4～9の平均値)に着目して整理してみよう。

図1～16 は、科目群ごとに、横軸に「教員の教え方」の平均値を、縦軸に「総合満足度」をとり、各科目の値をプロットしたものである。左欄の図(図 ○-a)が 18 年度前学期、右欄の図(図 ○-b)が 17 年度前学期である(ただし、両指標ともに同じ値である科目も存在し、これらは図示する際に点[マーカー]が重なるため科目数とマーカーの数は必ずしも一致していないこと、また、図7、11、15 の目盛の下限値が他の図と異なることに留意。なお、「日本語・日本事情」の図は割愛)。

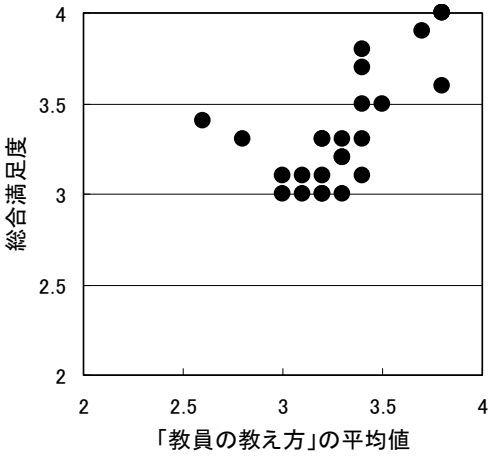


図1-a 日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ(H18・前期)

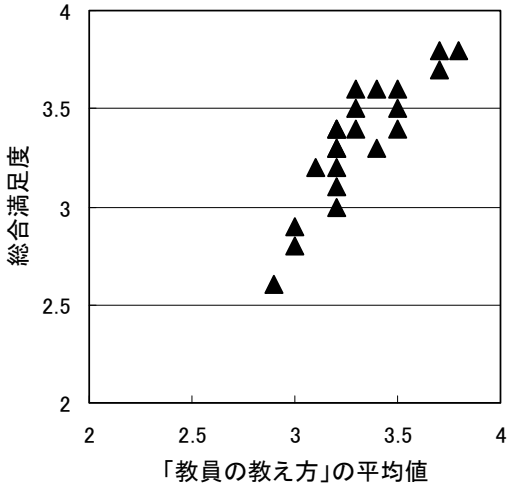


図1-b 日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ(H17・前期)

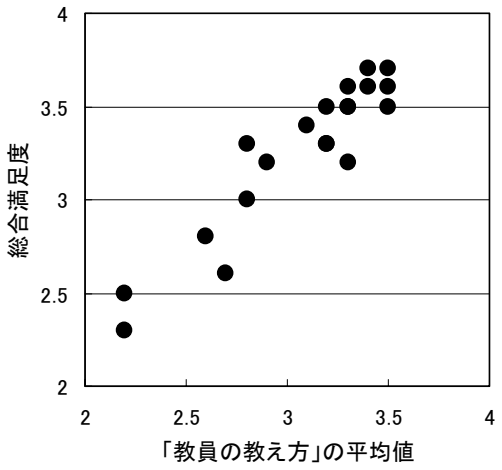


図2−a　情報処理入門（H18・前期）

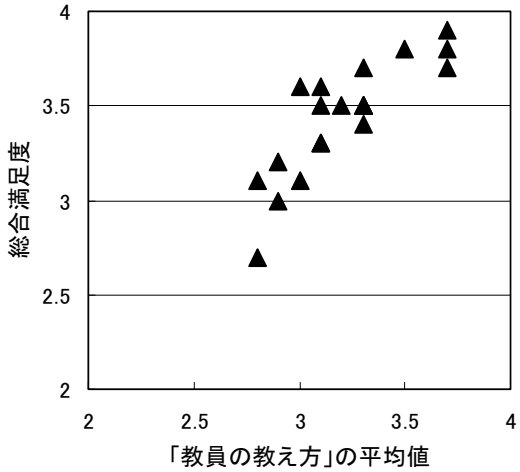


図2−b　情報処理入門（H17・前期）

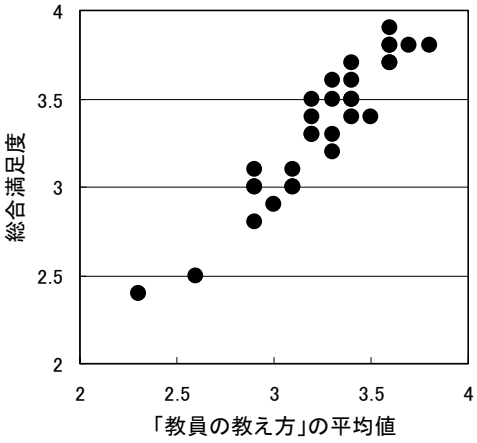


図3−a　英語（H18・前期）

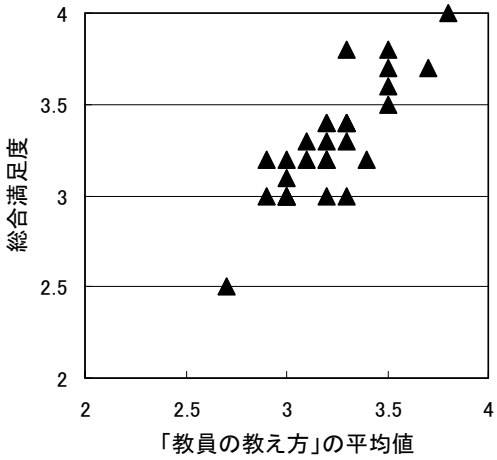


図3−b　英語（H17・前期）

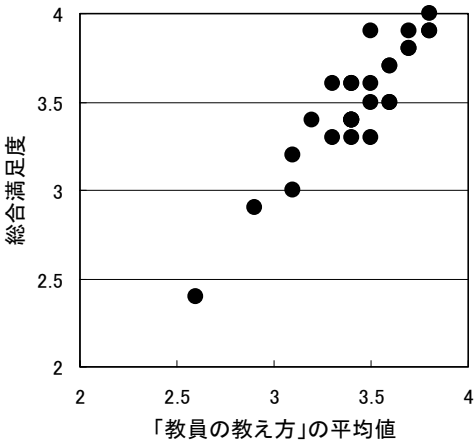


図4−a　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語（H18・前期）

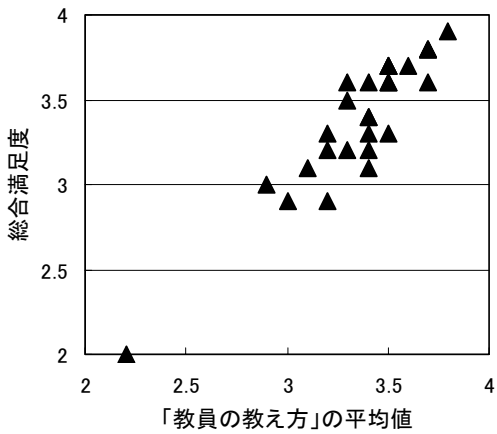


図4−b　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語（H17・前期）

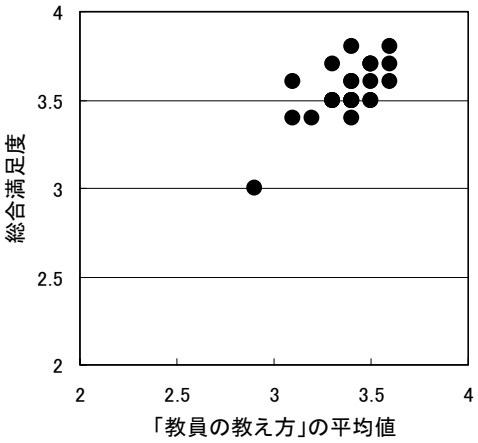


図5-a　保健体育科目（H18・前期）

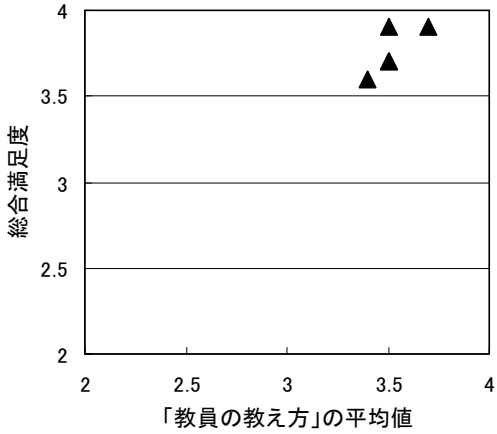


図5-b　保健体育科目（H17・前期）

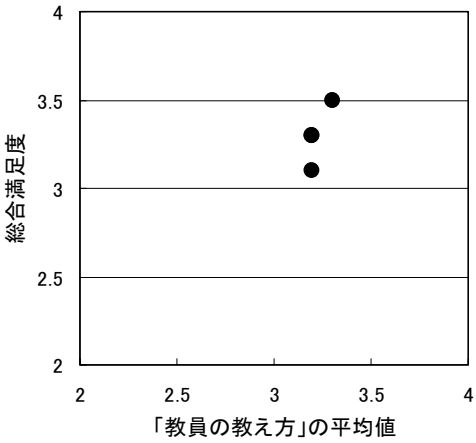


図6-a　現代の社会と倫理（H18・前期）

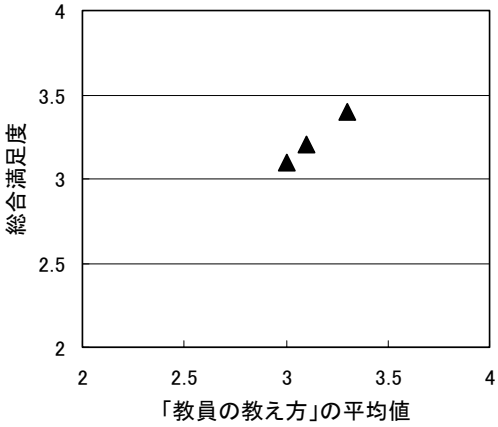


図6-b　現代の社会と倫理（H17・前期）

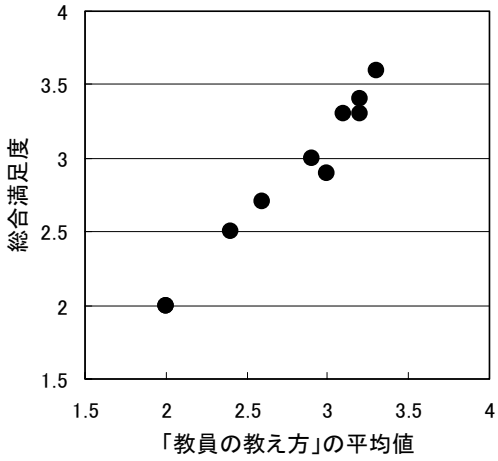


図7-a　人間と文化（H18・前期）

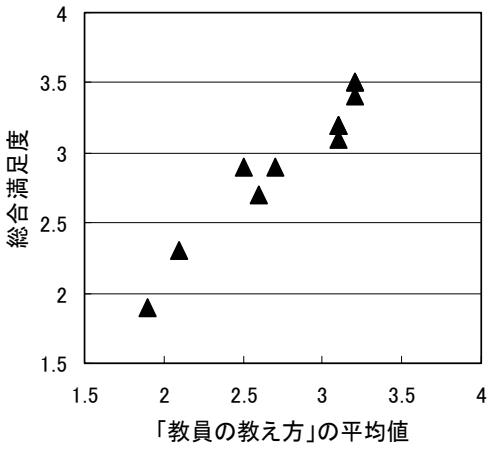


図7-b　人間と文化（H17・前期）

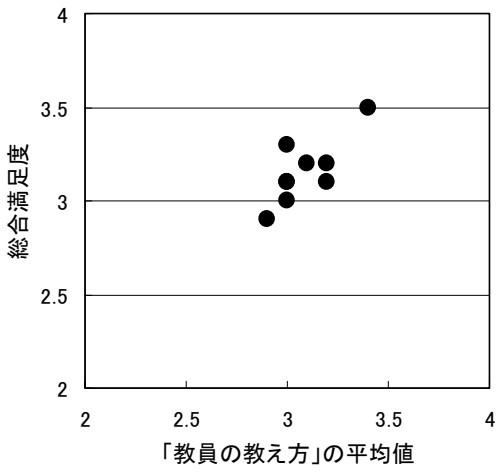


図8-a　現代社会の課題（H18・前期）

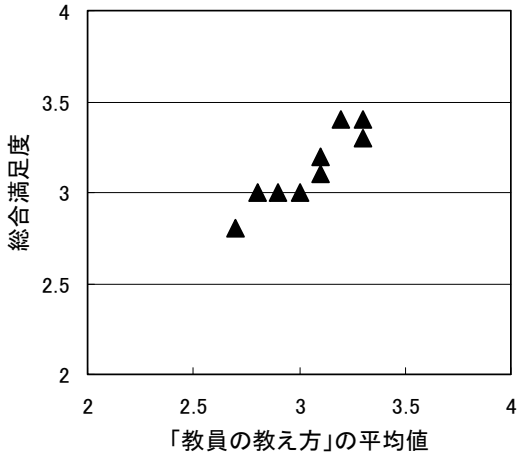


図8-b　現代社会の課題（H17・前期）

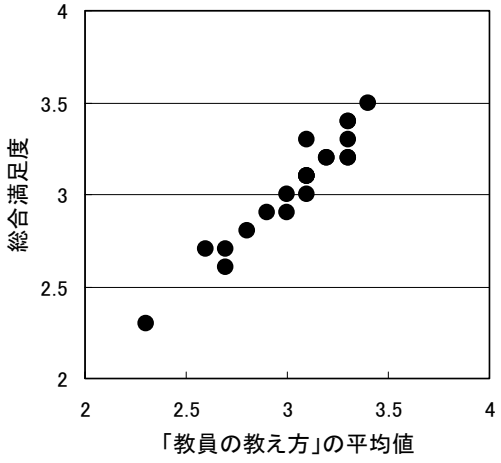


図9-a　自然と生命（H18・前期）

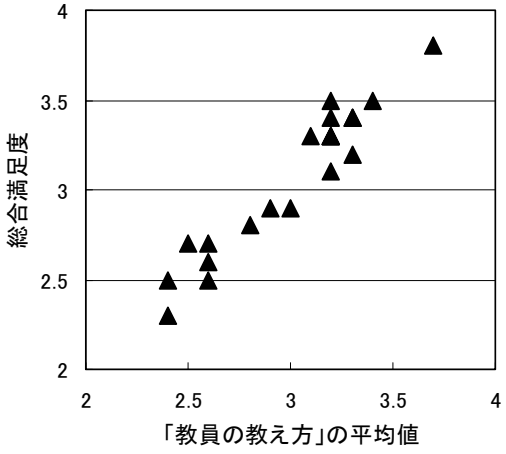


図9-b　自然と生命（H17・前期）

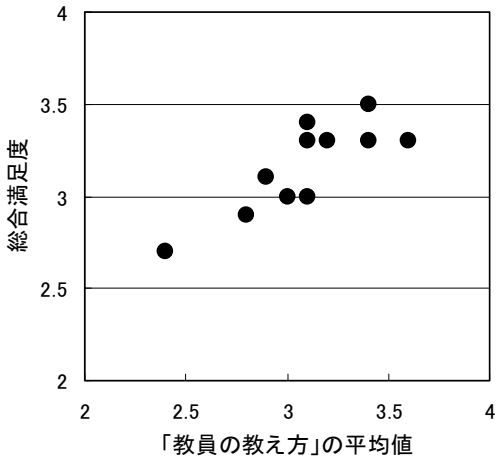


図10-a　文化・社会系（H18・前期）

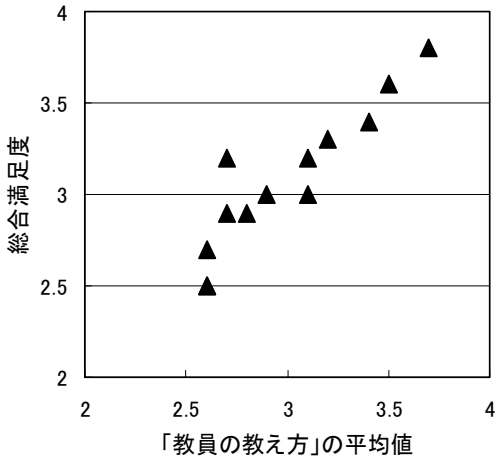


図10-b　文化・社会系（H17・前期）

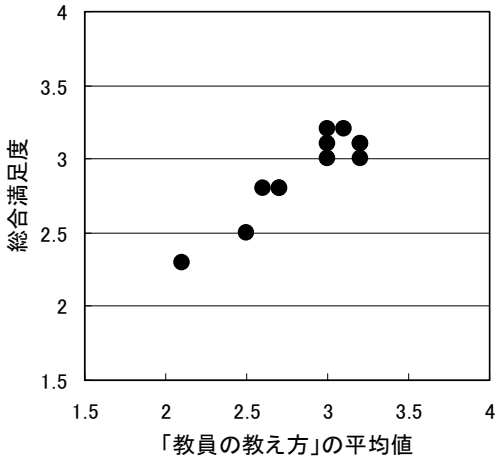


図11-a　科学・技術系（H18・前期）

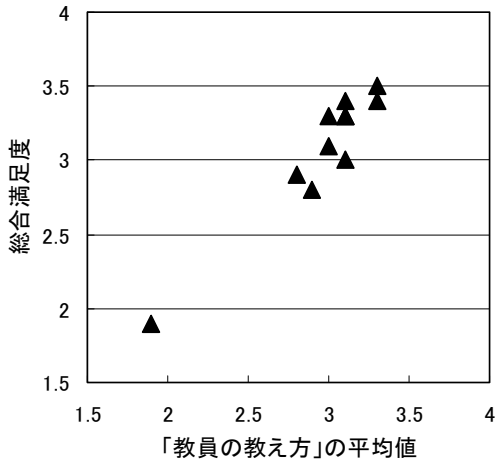


図11-b　科学・技術系（H17・前期）

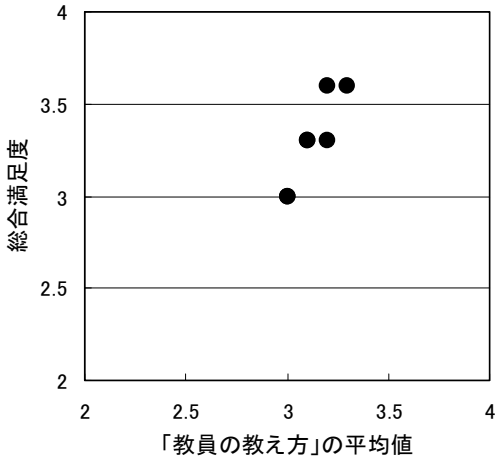


図12-a　生命科学系（H18・前期）

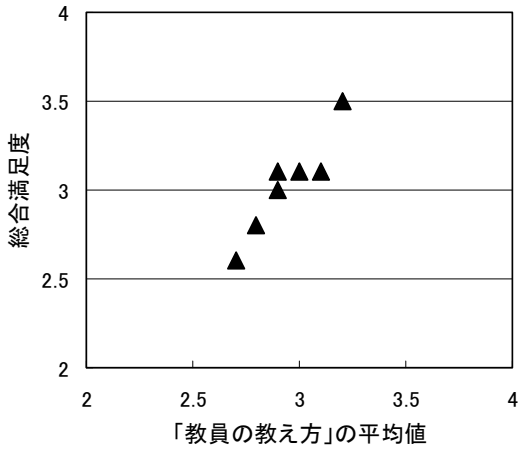


図12-b　生命科学系（H17・前期）

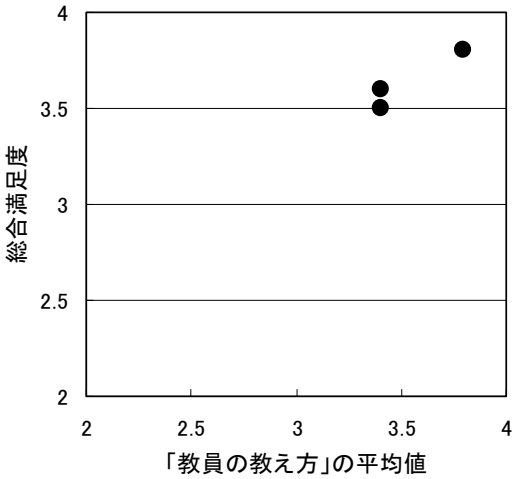


図13-a　複合・学際系（H18・前期）

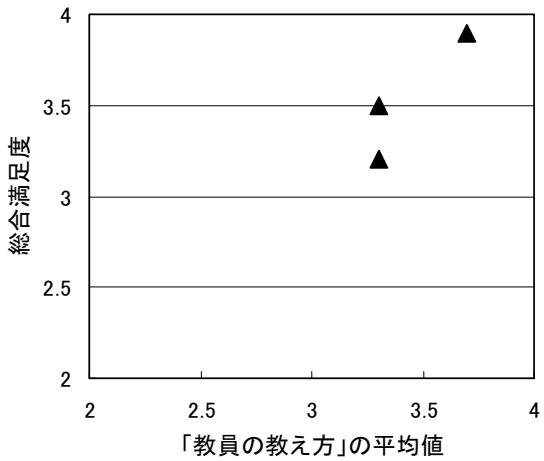


図13-b　複合・学際系（H17・前期）

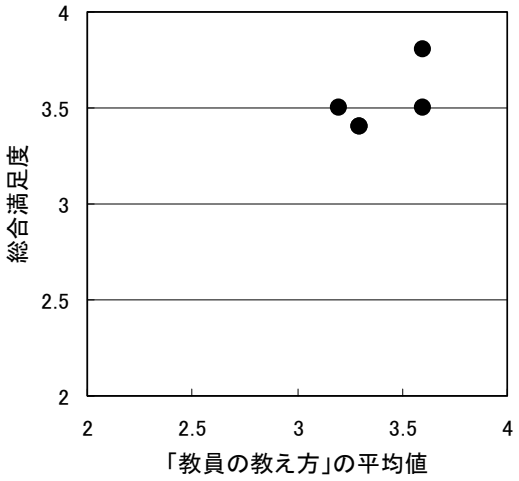


図14-a　生涯学習系（H18・前期）

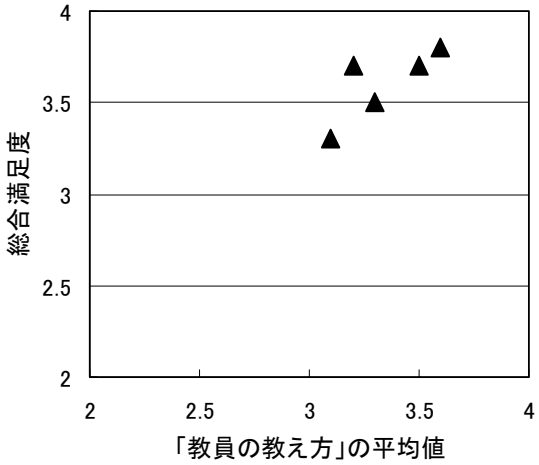


図14-b　生涯学習系（H17・前期）

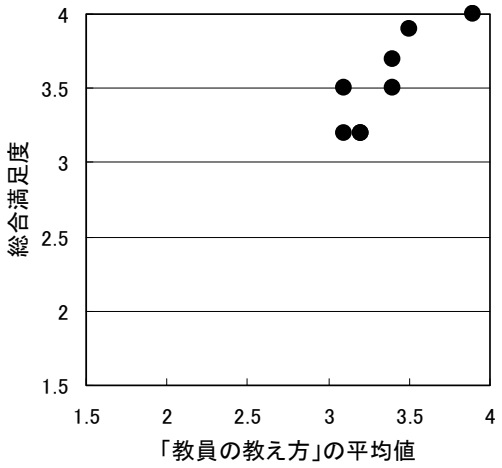


図15-a　外国語系（H18・前期）

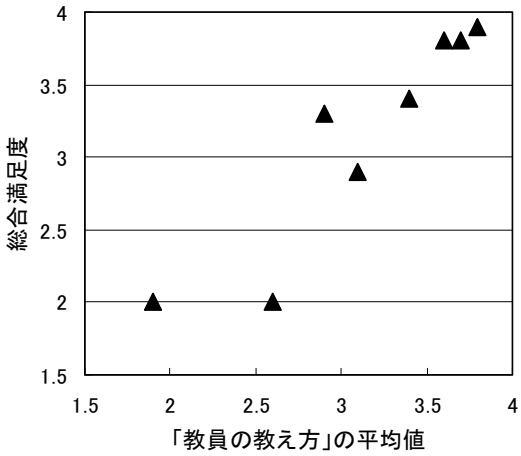


図15-b　外国語系（H17・前期）

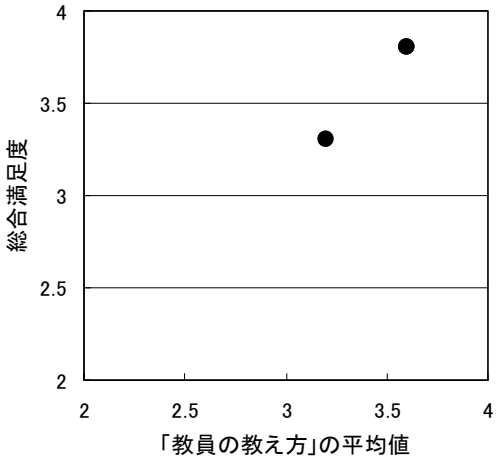


図16-a　専門基礎科目（H18・前期）

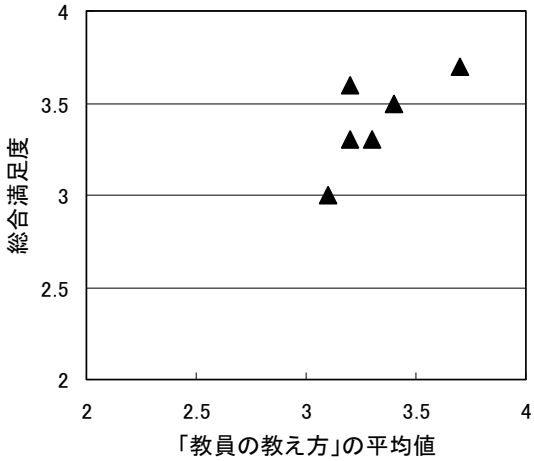


図16-b　専門基礎科目（H17・前期）

科目群により含まれる科目数が異なるため、科目群ごとの厳密な比較はできないが、それでも以下の特徴は指摘できよう。

①18 年度前学期における分布

- 回答数が5科目を超える群のうち、回答科目間（担当者間）の評価のばらつきが比較的小さい群は、「日本語コミュニケーション」、「コミュニケーション英語」、「保健体育科目」、「現代社会の課題」、「生命科学系」、「外国語系」である。これらの科目群においては、「教員の教え方」の平均値や「総合満足度」が殆どの科目で 3.0 以上となっている。
- 他方、評価のばらつきが比較的大きい群は、「情報処理入門」、「英語」、「人間と文化」、「自然と生命」、「文化・社会系」、「科学・技術系」である。これらの科目群においては、両方または片方の指標が 3.0 に満たない科目が2割以上存在する。
- なお、「現代の社会と倫理」、「複合・学際系」、「生涯学習系」、「専門基礎科目」はデータが5科目以下と少ないが、回答を得たすべての科目において両指標ともに 3.0 以上の評価となっている。

②前年度（17 年度）前学期との比較

- 前回の報告書では、ほぼすべての科目群において 17 年度後学期と 16 年度後学期が似通った分布傾向を示していることを指摘した。同時に、ほとんどの科目群において評価の平均値が上がっている証として、評価の高い科目が増加するパターンと、評価の低い科目が減少するパターンの2通りがあることも指摘した。
- 今回の比較（18 年度前学期と 17 年度前学期）においても、両年度において基本的には概ね似通った分布傾向を示している。ただし、前回と比べれば、類似の程度の弱い科目群もみられること、また、評価の低い科目がむしろ増える（あるいは新たに出現する）科目群等もみられることが、今回の特徴である。
- 含まれる科目数が5科目を超える科目群に着目すると、3つのパターンに分けられる。すなわち、①評価の低い科目が概ね減少したパターンとして、「日本語コミュニケーション」、「生命科学系」、「外国語系」の3科目群、②評価の低い科目がむしろ増加したパターンとして、「情報処理入門」、「英語」、「科学・技術系」の3科目群、③判断が難しい側面もあるが、両年度においてあまり大きな変化がないパターンとして、「コミュニケーション英語」、「人間と文化」、「現代社会の課題」、「自然と生命」、「文化・社会系」の5科目群である（なお、「保健体育科目」は、科目数が5科目を超えるが前年度の回答数が少ないこと、その他の科目群は科目数が5科目以下と少ないことから、いずれも判断は差し控える）。
- ただし、同じ③のパターン（変化の少ないパターン）であっても、「コミュニケーション英語」と「現代社会の課題」においては評価の高くない科目（評価点が 3.0 未満の科目）が両年度ともに殆どみられない。これに対し、「人間と文化」、「自然と生命」、「文化・社会系」おいては、こうした科目が両年度ともにみられる。【２－１】における科目群ごとの平均と全体平均との違

いには、こうした分布の特徴や、②のパターンの出現が影響していることがうかがえる。

- 改めて述べると、既にみたように、平均でみれば評価の上がっている科目が多く、教育改善の効果は着実に現れているといえる。しかしながら、科目群ごと、あるいは個々の科目ごとにみると、評価の下がっているケースがみられるのが、今回の大きな特徴である。無論、両年度における担当教員の違いや回収された科目数の違い、受講する学生の違いや主観等があるため、評価の高低に一喜一憂すべきではない。とはいえ、今回の分析結果を教員各自が自身のこととして受け止め、より一層の教育改善に向けて活用して頂きたい。
- なお、クリアすべき評価点の目安を「あてはまる」の評点である 3.0 に置くならば、学生の「総合満足度」がこの基準に満たない科目は、17 年度前学期は全 223 科目中 40 科目存在した（「初修外国語」を除けば、全 201 科目中 36 科目となる）。これに対し、18 年度前学期は、全 229 科目中 31 科目であった。数は減少したものの、依然として 14%の科目が該当することから、個々の担当教員における自覚と一層の工夫が望まれる。

【学生による授業評価結果のまとめ】

- 2年半における動向をみると、共通教育への学生の評価は上がっており、共通教育のFD活動は成果を挙げつつあるといえる。
- しかしながら、前年同学期と比較すると、評価が概ね横ばいである。
- また、科目間の評価には差がみられ、かつ、科目群や個々の科目ごとにみると、むしろ評価の下がっているケースがみられる。
- こうした点を踏まえ、より一層の教育改善に向けて、今後さらに取り組みを進めていく必要がある。

「教員の教え方」（質問4～9）の平均値の度数分布（該当科目数と割合；平成18年度前学期）

（上段：科目数，下段：割合）

「教員の教え方」の平均値	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	計
全体	2	1	2	2	2	1	7	5	5	11	16	26	33	28	35	17	19	6	9	2		229
	0.9	0.4	0.9	0.9	0.9	0.4	3.1	2.2	2.2	4.8	7.0	11.4	14.4	12.2	15.3	7.4	8.3	2.6	3.9	0.9		100.0
(1)日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ							1		1		2	2	5	4	5	1		1	4			26
							3.8		3.8		7.7	7.7	19.2	15.4	19.2	3.8		3.8	15.4			100.0
(2)情報処理入門			2				1	1	2	1		1	3	4	2	3						20
			10.0				5.0	5.0	10.0	5.0		5.0	15.0	20.0	10.0	15.0						100.0
(3)英語				1			1			4	1	3	4	4	5	1	5	1	1			31
				3.2			3.2			12.9	3.2	9.7	12.9	12.9	16.1	3.2	16.1	3.2	3.2			100.0
(4)ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語							1			1		2	1	2	7	4	4	3	3			28
							3.6			3.6		7.1	3.6	7.1	25.0	14.3	14.3	10.7	10.7			100.0
(5)保健体育科目										1		2	1	4	8	6	3					25
										4.0		8.0	4.0	16.0	32.0	24.0	12.0					100.0
(6)現代の社会と倫理													3	1								4
													75.0	25.0								100.0
(7)人間と文化	2				1		1			1	1	1	2	1								10
	20.0				10.0		10.0			10.0	10.0	10.0	20.0	10.0								100.0
(8)現代社会の課題										1	4	1	2		1							9
										11.1	44.4	11.1	22.2		11.1							100.0
(9)自然と生命				1			1	2	1	1	2	6	2	5	1							22
				4.5			4.5	9.1	4.5	4.5	9.1	27.3	9.1	22.7	4.5							100.0
(10)文化・社会系					1				1	1	1	3	1		2		1					11
					9.1				9.1	9.1	9.1	27.3	9.1		18.2		9.1					100.0
(11)科学・技術系		1				1	1	2			3	1	3									12
		8.3				8.3	8.3	16.7			25.0	8.3	25.0									100.0
(12)生命科学系											2	2	2	1								7
											28.6	28.6	28.6	14.3								100.0
(13)複合・学際系															2				1			3
															66.7				33.3			100.0
(14)生涯学習系													1	2			2					5
													20.0	40.0			40.0					100.0
(15)外国語系												2	2		2	1				1		8
												25.0	25.0		25.0	12.5				12.5		100.0
(16)専門基礎科目													1				2					3
													33.3				66.7					100.0
(17)日本語・日本事情																1	2	1		1		5
																20.0	40.0	20.0		20.0		100.0

「総合満足度」（質問12）の度数分布（該当科目数と割合；平成18年度前学期）

（上段：科目数，下段：割合）

「総合満足度」の評点	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	計
全体	2			3	2	4	2	5	6	7	22	18	18	29	19	31	19	14	14	7	7	229
	0.9			1.3	0.9	1.7	0.9	2.2	2.6	3.1	9.6	7.9	7.9	12.7	8.3	13.5	8.3	6.1	6.1	3.1	3.1	100.0
(1)日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ											5	4	2	5	1	2	1	1	1	1	3	26
											19.2	15.4	7.7	19.2	3.8	7.7	3.8	3.8	3.8	3.8	11.5	100.0
(2)情報処理入門				1			1			4	1	3	4	4	5	1	5	1	1			31
				3.2			3.2			12.9	3.2	9.7	12.9	12.9	16.1	3.2	16.1	3.2	3.2			100.0
(3)英語					1	1			1	1	4	2	1	3	3	4	2	3	4	1		31
					3.2	3.2			3.2	3.2	12.9	6.5	3.2	9.7	9.7	12.9	6.5	9.7	12.9	3.2		100.0
(4)ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語					1					1	1		1	3	5	3	4	2	2	4	1	28
					3.6					3.6	3.6		3.6	10.7	17.9	10.7	14.3	7.1	7.1	14.3	3.6	100.0
(5)保健体育科目											1				3	9	5	5	2			25
											4.0				12.0	36.0	20.0	20.0	8.0			100.0
(6)現代の社会と倫理												1		2		1						4
												25.0		50.0		25.0						100.0
(7)人間と文化	2					1		1		1	1			2	1		1					10
	20.0					10.0		10.0		10.0	10.0			20.0	10.0		10.0					100.0
(8)現代社会の課題										1	1	3	2	1		1						9
										11.1	11.1	33.3	22.2	11.1		11.1						100.0
(9)自然と生命				1			1	2	1	2	2	4	4	2	2	1						22
				4.5			4.5	9.1	4.5	9.1	9.1	18.2	18.2	9.1	9.1	4.5						100.0
(10)文化・社会系								1		1	2	1		4	1	1						11
								9.1		9.1	18.2	9.1		36.4	9.1	9.1						100.0
(11)科学・技術系				1		1			3		2	3	2									12
				8.3		8.3			25.0		16.7	25.0	16.7									100.0
(12)生命科学系											2			3			2					7
											28.6			42.9			28.6					100.0
(13)複合・学際系																1	1		1			3
																33.3	33.3		33.3			100.0
(14)生涯学習系															2	2			1			5
															40.0	40.0			20.0			100.0
(15)外国語系													3			2		1		1	1	8
													37.5			25.0		12.5		12.5	12.5	100.0
(16)専門基礎科目														1					2			3
														33.3					66.7			100.0
(17)日本語・日本事情								1					1						1		2	5
								20.0					20.0						20.0		40.0	100.0

第3章　教員によるFD活動レポート

【1】学生による評価と教員の自己評価の比較

「学生による授業評価」の質問項目と「教員のFD活動レポート」の質問項目とは次のように対応している。

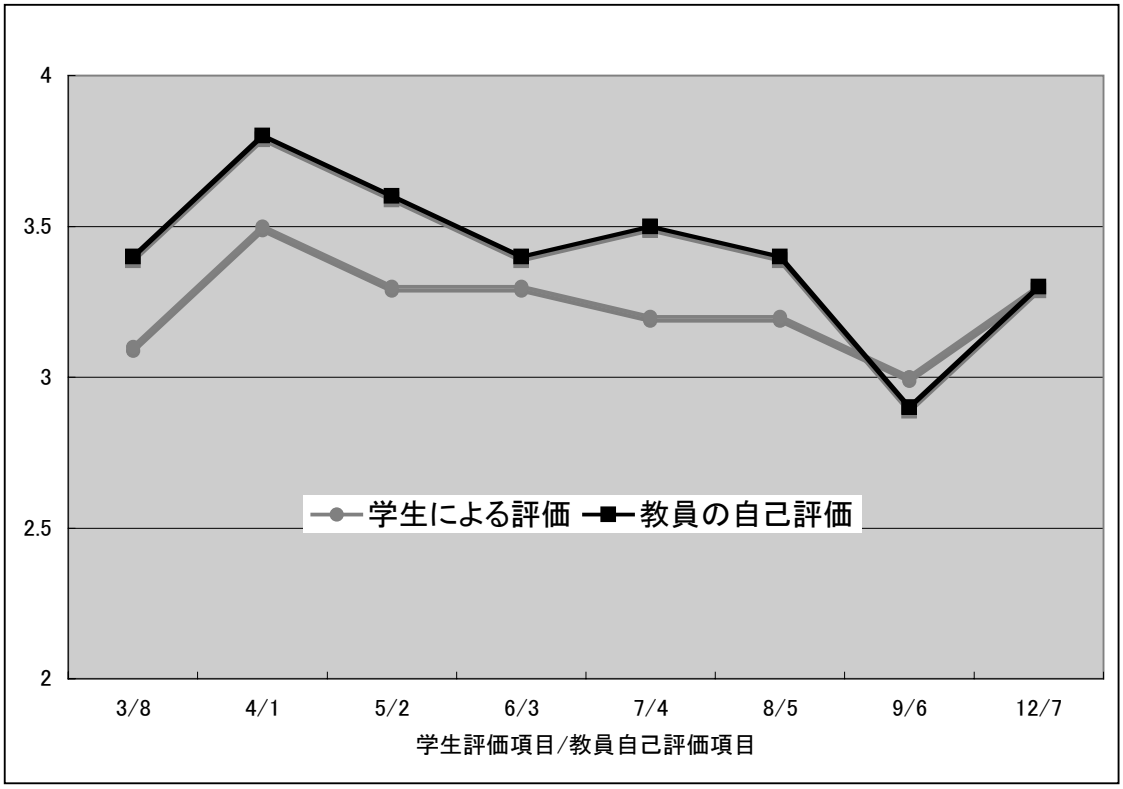
学生による授業評価		教員のFD活動レポート	
1	私は75％以上授業に出席した。		
2	私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。		
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した。	8	シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。
4	授業はシラバスに沿って行われた。	1	シラバスに沿って授業を行えた。
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	2	学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	3	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
7	重要なポイントが明らかで、説明も分かり易かった。	4	重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	5	学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	6	授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。
10	クラスサイズ（受講生数）は適切だった。		
11	学習環境は適切だった。		
12	満足できる授業だった。	7	総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

そこで、「学生による授業評価」の質問3、4、5、6、7、8、9、12について、以下「教員のFD活動レポート」の対応項目との全科目平均の比較を行なう。

まず、対応する項目の評価結果を並べると次の表のようになる。

学生評価項目/教員自己評価項目	3/8	4/1	5/2	6/3	7/4	8/5	9/6	12/7
学生による評価	3.1	3.5	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.3
教員の自己評価	3.4	3.8	3.6	3.4	3.5	3.4	2.9	3.3

これをグラフにすると下のようになる。



グラフの全体的なパターンは前2回（17年度前期・後期）のものと類似している。すなわち、項目4/1（シラバスに沿った授業）の評価が高く、項目9/6（予習・復習の課業）の評価が低い。また、学生による評価と教員の自己評価がほぼ対応している点も前2回と同様である。しかしながら、今回の大きな特徴として、ほとんどの評価項目において、教員の自己評価が学生による評価を上回ったことがあげられる。ちなみに、開講科目が今回調査とほぼ同様である17年度前期において教員の自己評価が学生による評価を上回ったのは3/8、5/2、7/4の3項目のみであった。このような違いは、学生による評価が下がったことによるのではなく、教員の自己評価が高くなったことによる（教員の自己評価と学生による評価の平均値は、17年度前期ではそれぞれ3.13と3.21であったが、今回は3.41と3.24である）。これは、教員の自己評価が甘いと見るべきであろうか、あるいは授業への自信を深めていると解すべきであろうか。

前々回から指摘され続けてきた項目 3/8（達成目標への到達度）については、相変わらず、学生の採点は辛い。

また項目 12/7（授業の満足度）については、前回の調査で、学生と教員の評価のズレが縮まってきていると分析されたが、今回調査では図らずも両者の評価が一致した。

達成目標への到達度については、相変わらず学生の採点は辛い。

授業の満足度については、学生と教員の評価のズレが縮まった。

【2】教員のFD活動レポート

以下に、教員のFD活動レポートの自由記述を科目群別に紹介する。また、それぞれ「これまでのFD活動」と「今後のFD活動の予定」についても紹介した。その際、17年度までとは記述方式をやや変更し、先ずFD活動の内容について回答項目別の回答数をもって、それぞれの内訳（複数回答可であるので、回答総数とは一致しない）を明示した後に自由記述を掲載した。尚、今年度より初修外国語科目は通年開講であることに鑑み、前学期にはアンケート調査の対象外とした。又、前学期開講科目である「日本語コミュニケーション」及び「情報科学入門」を立項した。「英語」と「コミュニケーション英語」も別々に取り扱うこととした。又、文体は敢えて統一しなかったが、明らかな誤入力・変換による誤記或いは文意が曖昧な個所は、原文の後ろに[ ] で括って正し、句読点を揃える等の編集を適宜施した。

【2-1】日本語コミュニケーション …… 28
【2-2】情報科学入門 …… 29
【2-3】英語 …… 31
【2-4】コミュニケーション英語 …… 33
【2-5】健康スポーツ科学 …… 35
【2-6】主題教養科目 …… 36
【2-7】選択教養科目・専門基礎科目 …… 39

【2-1】日本語コミュニケーション

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動（回答数/24[総開講数]）

① 他教員の授業参観（7）
② 学内外の FD 講演会等への参加（5）
③ 他大学の FD 活動の視察（0）
④ その他（4）
＊教員間の授業内容について情報交換
＊学内教員との FD に関する意見交換
＊グループの意見形成技法などの方法についての調査
＊学科内授業改善委員会

- 今後取り組もうと考えている FD 活動（回答数/24[総開講数]）

① 他教員の授業参観（11）
② 学内外の FD 講演会等への参加（9）
③ 他大学の FD 活動の視察（1）
④ その他（1）

・学科の先生方の取り組みの状況を総合的に判断し代表して回答したので、この欄については書き難しです。
・今年で 3 年目であるが、授業評価を参考に講義方法などを年々改善してきた。昨年度と今年度の授業評価を比較すると、「私はこの科目の達成目標を達成した＝2.5」と「学習意欲を掻き立てる＝2.8」の項目以外すべて 3 以上である。講義名でわかるように日本語コミュニケーションの達成目標は 1 年前期（2 単位）で達成できる目標ではないことから、2.5 の評価はおおむね妥当な点数であると考えている。学習意欲をどのようにして掻き立てるか今後検討したい。
・資料を集める・まとめる、文章を書く、班内で議論する、プレゼンスライドを作る、発表する、質問する等の要素を授業内に取り込んだ。
・学内に限らず、社会的な評価につながるパフォーマンス(運用)面について適切に教育できた。またレポートの書き方やノートの取り方など、大学生活の基礎となる内容を説明したが、これらは高校までに学習してきて欲しいものである。
・日本語コミュニケーションは、学科の教育目標と深く関連していて重要な位置づけになっており、授業改善報告書を作成して授業の改善に取り組んだ。

【2-2】情報科学入門

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動（回答数/23[総開講数]）

① 他教員の授業参観（3）
② 学内外の FD 講演会等への参加（6）
③ 他大学の FD 活動の視察（2）
④ その他（4）
　＊ 市販教本の内容調査、講義内容の検討
　＊ 情報教育関連学会等への参加
　＊ Web より他大学の同様授業テキストを参考にした
　＊ 学科内の教員間の授業改善委員会

- 今後取り組もうと考えている FD 活動（回答数/23[総開講数]）

① 他教員の授業参観（7）
② 学内外の FD 講演会等への参加（6）
③ 他大学の FD 活動の視察（3）
④ その他（5）
　＊ 市販教本の内容調査、講義内容の検討
　＊ 情報教育関連学会等への参加

・この授業の特質として、今までのパソコンの学習履歴に応じて、この授業に期待する学生の要望が大きく異なる点が挙げられる。そこで、授業の前半は全くパソコンに触れたことがなくても理解できるように、授業進度を低く設定した。また、後半ではパソコンの基礎的な取り扱いに習熟したことを前提として、発展的な内容も含めて授業を行った。学生による授業評価を見ると、今までの学習履歴によって感想が異なっているが、本授業の当初の目的は十分達成されたと考えている。
・総合情報処理センターの液晶プロジェクタのスクリーン画像は教室（A 実習室）の後ろではほとんど見えないので、改善を要する。
・多くの学生が基本的リテラシーを習得済みと判断したため、グループ毎に、模擬授業形式によりテキストの内容を解説させた。緊張感も高まり、テキスト全体を学習させることが出来た。また、教員養成としても意味があったように思える。ただし、内容の深まりに課題が残った場面もあり、別に適切な演習課題が必要と感じた。
・これまで、授業の資料は、自作メモ、コピー等に頼っていたが、学生の学力を考えると、やはり活字で印刷された、それなりに一貫した、まとまりのある教科書が必要であるように感じられた。今回、学生に教科書を購入させたことは結果的によかったと思われる。情報処理の技法は今後も必要になるので、教科書が無駄になることはないであろう。
・今回は、初めて 2 人で担当することを試みた。ただ、お互いの意思の疎通や連絡不足から

問題が生じることもあった。2 人で実施する場合には、お互いの役割分担と情報交換を円滑に進める必要があることを実感した。

・講義のための教材作成など、準備にはそれなりの手間をかけているが、いざ、講義の実施にあたって、最近、説明の仕方が粗雑になっているような気がする。学生から思いもかけない質問をされ、以外とかなり受講生がついてゆけていないことも推察される。この点は反省すべきかもしれない。

・今年度入学の学生は、情報リテラシーを履修済みと聞いていましたが、アンケートを取ると約 15%が未履修（ワードとエクセル）でした。できる学生とできない学生の差が今までより広がり、教える内容の選択が難しくなっています。毎回、基礎的な内容のメモを学生に配布し、発展問題を課すように心がけました。次年度も学生の履修状況を確認しながら、授業を進める予定です。なお、この授業は先に書いたように学生レベルの差が大きいため、TA の活用は大変役に立ちました。TA なくてはこの科目は成立しないと思います。

・「学生による授業評価」の Web 入力ですが、事前に教員がアンケート画面にアクセスできるよう配慮をお願いします。

・講義の性質上、自らマニュアルを検索してコンピュータの使い方を調べるような課題や講義内容としたが、学生からは、1 から 10 まですべて教えてほしいとの意見が多く、意図が十分伝わっていない点が反省点として挙げられる。

【2-3】英語

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動（回答数/31[総開講数]）

① 他教員の授業参観（1）
② 学内外の FD 講演会等への参加（13）
③ 他大学の FD 活動の視察（1）
④ その他（7）
　＊九州地大学共通教育協議会発表
　＊小中高の英語教員の研修、授業研究など
　＊リーディング指導に関する新手法の DVD を購入した（訳先渡し式の授業）

- 今後取り組もうと考えている FD 活動（回答数/31[総開講数]）

① 他教員の授業参観（11）
② 学内外の FD 講演会等への参加（8）
③ 他大学の FD 活動の視察（5）
④ その他（4）
　＊九州地大学共通教育協議会発表
　＊小中高の英語教員の研修、授業研究など

・授業の進度としては、予定の 1 回２課は、学生の能力的にも分量が多すぎたので、途中から１回１課にしたため、結局予定の半分しか進めなかった。その点で学生の不満があるやも知れないが、急いでやっても、予習をしてくるよう促してもしてこない学生が多い中、不消化のまま進むことになるので、軌道修正した。判断としては間違ってはいないと思う。
・公開授業への取組。ラジオ、TV、etc. メディアを用いた授業
・リスニングに関して：大部分の学生の注目と関心そして満足度を得ることが出来たのではないかと思う。リーディングに関して：学生の能力と関心に違いがあるので、学生と教師の双方に満足感があるように工夫しなければと思う。
・教える内容の研鑽に努めています。
・リーディングを主体にした授業であるが、必ずしも目標達成に十分な量の課題を出すことができていない。学生のリーディングに対する意欲をどう確保していけるかが、今後の課題である。
・赴任初年度であったため、内容が学生の学力を超えていた。講義はすべて英語で実施したが、学生のアンケートによると今後も英語で講義を続けてもらいたいという意見が圧倒的であった。
・一部の際受講生については出席その他について個別に指導した。
・まず、英語の学力、モチベーションが異なるクラス全員に満足のゆく授業は不可能である。自分の授業で何が問題かは、30 年以上も教えていると学生に指摘されなくても分かる。

・日本語訳しか頭に残らないような授業はしていない。
・授業中に寝ている学生もあり、もう少し学生の興味を引く工夫が必要と感じた。FD はほとんど実行できませんでした。ハリーポッターを読ませる際、英文の味わい方など、もっと深みのある講義をしなければと感じた。
・全学生の反応を確認する余裕がなく、全力投球に走ったきらいあり。努力はしたつもりだが・・・。「意欲を掻き立てる」ことは出来なかった。設問 11 については、受容者の能力にバラつきがあり、全員あしなみ揃えるのは出来なかった。目標達成するよう誠実に努力した。が、方法論において、もっと工夫すべきであった、と反省している。
・何度も言うように、笛吹けど踊らず。学生の「やる気」を引き出すのは至難のワザ！それに相対的に工学部の学生の英語基礎力が弱すぎる。
・学生が受け身にならずに自ら活動（読むことも含む）するようにしたことはよかった。グループ活動を行う際、「輪」になかなか入ってこない学生をどのように積極的に共同作業に加わらせるかの工夫が難しい。
・英文の読解力の向上のため、二つのやり方（精読と大意をつかむ読み方）を行った。特に大意をつかむ読み方のほうは、各自が興味のある英文記事を見つけて、それを報告し、レポートにして提出することで、学生の主体的な学習を促したと思う。〇精読にはかなり時間がかかり、教科書があまり進まなかった。また、最期に映画（『ローマの休日』）を見せたが、こちらは、読解力養成とはあまり関係ない内容になった。
・２年ぶりに担当して学生間の到達度の差がずいぶんと広がっているのに途中で気がついた。特に編入生への対応は途中から添削ノートを試みたが遅きに失した。
・分かりやすい英語で説明しているが、中には理解していない学生がいる。時間数に限りがある。
・リスニングに関して：大部分の学生の関心を一つにまとめることが出来たと思う。リーディングに関して：学生の力と関心に大きな差があるので、もう一工夫が必要と思う。この点を後期に反映させたい。
・教える内容の研鑽に努めています。
・学生の理解度やレベルにバラつきがあり、授業内容の調整が難しかった。昨年の授業評価を基に今年は予習を課し、長文読解に焦点を当てた授業内容にした。昨年度の４スキルを取り入れた授業内容と比べると、学生の満足度は低下したように思える。やはり文法と reading ばかりでなく、４スキル（listening、speaking、reading、writing）をバランス良く取り入れた授業が求められているような気がする。
・後半少し寝ている人もいたが、全体には聞いてもらっている感覚は残っています。まずまずだったと思います。

【2-4】コミュニケーション英語

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動（回答数/28[総開講数]）

① 他教員の授業参観（2）
② 学内外の FD 講演会等への参加（10）
③ 他大学の FD 活動の視察（1）
④ その他（6）
　＊ 中高の英語授業の参観、研究会への参加
　＊ 学生に個別に時々意見を求めた

- 今後取り組もうと考えている FD 活動（回答数/28[総開講数]）

① 他教員の授業参観（6）
② 学内外の FD 講演会等への参加（9）
③ 他大学の FD 活動の視察（1）
④ その他（4）
　＊ 中高の英語授業の参観、研究会への参加

・リスニングを 40 名のクラスでどう訓練するか、という問題は今回も十分にクリアできなかったように思う。少人数集中型を行わないとあまり成果は期待できないように思う。
・学生の評価にばらつきのある設問への対処はきわめて難しいと感じる。特に課題の量が適切かどうかを判断する基準を学生が持っていないため、回答はばらばらである。どう改善するべきか悩ましいところではある。
・今回は初めての試みとして DVD を用いた教材をテキストに選んで、学生の興味を引きつつ、生の英語にも親しませる方法を採った。生の英語は学生にはかなりハードルの高いものも含まれていたが、その後スクリプトの配布・解説等も行い、より深い自学自習への橋渡しも狙った。DVD の操作が、教室のパネル上では旨く行かず、もたついて学生に迷惑を掛けた点もあったと反省するが、リモコンを使ってはいけない、という教務課からの指示があり、この点は改善できないものかと思う。
・4 月から今までの間に英語コミュニケーション力が伸びたと学生に実感させることができた。〇学生の英語力や意欲の差が大きく、活動のマネージメントが難しかったが、難易度や目的の違う活動を組み合わせたりすることによってかなり解決した。〇やさしく素直な学生が多く、温かい気持ちで授業ができた。
・4 月から今までの間に英語コミュニケーション力が伸びたと学生に実感させることができた。
・何度もいうように、笛は吹きまくっていますが、踊る学生は殆どいない。
・映画『第三の男』（英語字幕つき）を教材として使った。よい映画なので、大半の学生が興味をもって学習できたと思う。スクリプトを配ることで、自宅学習もうながすことが出来

たと思う。○ただ、自ら英語で発話する訓練まではできなかった。

・２回に一回ノート提出させ添削してかえしたが、大変な労力であったものの成果はあった（学生の力の把握、学生は宿題を欲していることも分かった）。しかし添削の字が「続け字」で読みにくかったなどあり、15 名ほどのメールでの添削指導をしたが、この方式が全員に可能になったらもっと効果的な、教室外の学習指導まで効果的に行えたのだが。

・EVRYTHING is O.K.!

・再受講者には、出席その他について個別に指導した。

・字が上手でないので、板書の量を減らし、配付資料を増やした。

・初年度であったため、工学部の学生の英語力の把握ができていなかった。ただし講義はすべて英語で実施したことは、４月５月６月と３回実施したアンケートでは圧倒的な支持を得たことがよかった。

【2-5】健康スポーツ科学

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動（回答数/25[総開講数]）

① 他教員の授業参観（4）
② 学内外の FD 講演会等への参加（4）
③ 他大学の FD 活動の視察（2）
④ その他（1）
　＊　技能研修

- 今後取り組もうと考えている FD 活動（回答数/25[総開講数]）

① 他教員の授業参観（7）
② 学内外の FD 講演会等への参加（4）
③ 他大学の FD 活動の視察（4）
④ その他（0）

・欠席者が少ない。実技最終日（11 回目）には、このまま 15 回まで実技をしたいといった要望が出たほど、意欲的に学習活動に取り組む学生が多かった。毎回、グループごとにミニレポートを提出してもらい、次回の課題を明確にしたことで、受講生は、課題解決に向けて真剣に取り組むことができた。せっかく運動が習慣化したので、後期までの間、自分で積極的に運動する機会をみつけていきたいと言う感想（評価）を聞き、本授業が目的を達成したことを確認した。
・授業者の考えに基づいて目標を設定しているが、それがなかなか達成出来ない点は、学生の目標や希望がそれぞれ異なることが原因であると思う。これを解決することが今後の課題である。
・雨天時への対応として、授業内容を一部変更せざるを得なかった。受講生の大学入学までの運動経験では、自らの動きの感じを言語で表すのは大変難しく、高校までの体育と異なる高い目標に達することは難しい。
・授業者の考えに基づいて目標を設定し、それによって授業を展開しているが、それが十分に達成できない点は、受講学生の目標や希望をすべて充足させることが困難であることによっている。これをどのように解決していくかが今後の課題である。

【2-6】主題教養科目

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動（回答数/48[総開講数]）

① 他教員の授業参観（7）
② 学内外の FD 講演会等への参加（23）
③ 他大学の FD 活動の視察（0）
④ その他（13）
　＊ 内容の発展と配布物の改善
　＊ 前任校で①、 ②を実施
　＊ 昨年までの経過を踏まえた授業内容の改善
　＊ 理解度による少人数教育

- 今後取り組もうと考えている FD 活動（回答数/48[総開講数]）

① 他教員の授業参観（18）
② 学内外の FD 講演会等への参加（21）
③ 他大学の FD 活動の視察（1）
④ その他（6）
　＊ 一層の内容の発展と配布物の改善
　＊ 講演発表及び授業概要の資料化

・毎回教員が替わるような授業方式で、講義内容の全体の評価を学生や教員が行うことは難しいように感じます。まず、最低でも毎回の授業終了時に各授業の評価を学生に求め、その結果に基づいて科目全体の評価をしなければ、改善点も見いだせないように感じます。
・受講学生のレベルに高低の差があり、どの程度のレベルに合わせていいのか判断に苦しむことがしばしば。来期から、あまり欲張った内容を考えないことにしたい。
・出席の取り方に工夫の必要性を感じた。レポートの返却で多くの時間を費やしてしまった。
・易しいと思って選択した作品であっても、現在の学生には難解であったり、またごく一部の学生を除いては、無関心の様子で、質問をしても意見を求めても、また何か疑問点はないかと、問いかけても何も反応のない、学生には参加するという姿勢が感じられない、とにかく口を開けて待つだけの受身授業であった。次回から私の方も内容を含め再検討しなければいけないと考えている。
・授業時間毎の受講カードの提出と、授業時におけるワークシートの使用は、内容理解のために一定の効果をあげている。反省すべき点としては、毎年変化は加えていても、内容がマンネリに陥っているように思う。全体的な内容の見直しが必要な時期にさしかかっている。
・作業させながらの授業としては、人数が多すぎる（167 名）中で精一杯、可能な限りわかりやすく授業を行ったと思う。

・現代社会の諸問題を歴史的経緯と結びつけて理解する、市民に不可欠の教養を提供している。複雑な事象に正確な理解を求めようとするため内容過多になる傾向がある。学生のトピックスへの要望に応え、講義１４回化への対応を完了するためにも、一層の精選が必要になっている。
・対話を重視した授業が十分に行えなかった。来年度は自主学習との組み合わせを工夫したい。
・話したいことが年々蓄積していくにつれ、伝えるべきポイントというか話の焦点がぼけつつある。次年度は、授業内容をもっと精錬したい。あと、教室のマイクが壊れっぱなしだったので、途中から地声で授業をすることになり、「声が聞こえにくい」とのアンケート記述が多く見られたのは非常に残念である。教務厚生には、何度となく修理および改善を打診したのであるが、その結果ははかばかしくなかった。授業は、教員のみの努力のみで完結できるものではなく、環境整備等に関して、教務厚生その他の方々の手も借りることになる。「FD アンケート」という形が適切かどうかはわからないが、こうした方々のサポートが適切であったかも、チェックする場が必要ではないかと考える。
・「私の声が大きい」との他クラスからの批判があり、マイクのおんりょう[音量]を下げたが、学生からは「声が小さい」との意見もあった。大きな教室なので対応が難しい。「板書してほしい」という意見もあったが、パワーポイントと板書が併用できないので困っている（医学部では可）。
・数学のみならず科学の世界では、はじめに応用問題ありきで、その応用問題を解決するために私達は必要な道具を探したり編み出したりすることを学生に伝えることができたと思う。講義ではこれを「数学の考え方」として前面に押し出したつもりだが、小中高でまず基本計算を闇雲に叩き込まれるという勉強方法に慣れている学生には最初戸惑いがあったのではあるまいか。講義ではできるだけ日常生活に絡んだ例題を紹介するつもりだったが、物理の素養がない学生も多数いたため、結局マニアックな計算練習に陥ってしまったことが悔やまれる。
・内容に比べ教科書の進むページが多く、すべての項目を説明することができなかった。講義の進め方及び配布物を考慮していきたい。
・ほぼ毎授業、時間の最後に基礎的な問題、授業で扱いきれないが基礎的な問題を課題として課し、提出・添削を行ったが、後半は出張などが重なり返却が遅れてしまった。学習効果を上げるため、提出翌週には返却できるように、量・質の検討を行いたい。
・この種のアンケートは個人的にも実施してきたが、正直なところ、学生への効果としては期待がもてないし、学生は全体の結果をみても何のメリットもない。結局、学生へアンケートの実施結果を反映させるには、１：１で個人的に返答し、それを全体への回答例として紹介するという方法が適切であろうと考え、私の個人のホームページでそれを実践しはじめた。
・内容に比べ教科書の進むページが多く、すべてを説明することができなかった。講義内容を工夫するか、配布物で補うことを考えている。

・毎回学生に配布する資料は講義内容の定着に役立っていると考えているが、さらなる改善が必要と考えている。また、本年度は昨年度まで使用していた教科書を替え新しい教科書とした事と学生の理解度が当初の予想よりも遅かった事から、講義の準備は行ったものの当初の計画より講義の進度が少し遅れた。来年度からは、教科書の内容を踏まえて講義内容をさらに検討し、適切な進度で講義を進める事ができるように授業計画の改善が必要であると考えている。
・H18 入の新課程の学生を対象に、物理２を学んでない学生を対象に教材を選らんだが、今年度については旧課程と同程度の授業を受けてきた学生が半数くらいはいたように思う。簡単にできる教卓実験を数回取り入れ、好評であった。工学部には教卓実験の設備があるので、可能ならば工学部の教室で授業を行いたいと思っている。
・記憶する学習ではなく、考え表現する学習に重点を置いている。授業には毎回テーマを設け、それに沿って実施する。毎回ミニテストを実施（講義内容を基に考える課題や授業内容を要約する課題など）し、記載内容を評価して次回に返却し、重要な問題点について再度講義する。これにより双方向性を確保し、個人毎に対応した学習指導を図っている。学生のここ[個々]の状況に応じて対応できるよう、別に毎週補講の時間を設けた。補講は学生の質問に基づいて実施した。
・内容としては学生が理解できるものが講義できた。毎回の小テストが教員・学生にとって有意義であった。理解度の低い学生に対して、別枠で少人数教育を行った。
・７月５日の授業でアンケートを実施し、集計した結果、A1(4.0)、A2(3.31)、A3(2.92)、B4(3.64)、B5(3.02)、B6(3.15)、B7(2.92)、B8(2.84)、B9(3.36)、C10(3.36)、C11(3.52)、D12(3.15)でした。この結果を７月 12 日の授業で、学生に配布する予定です。A3(達成目標)、B4(重要ポイント)、B8(知的好奇心)、に関して、改善する必要があります。
・新課程の学生の理解度に合わせていくこと。
・学生の学習意欲や知的好奇心・関心を書き立てる教え方が難しい。
・自己学習のための宿題をもう少し増やすようにしたい。
・医学部は新卒者の比率が低く、新しい高校化学のカリキュラムに対応した講義が行えなかった。

【2-7】選択教養科目・専門基礎科目

- この授業科目に関してこの一年間取り組んだ FD 活動（回答数/53[総開講数]）

① 他教員の授業参観（4）
② 学内外の FD 講演会等への参加（23）
③ 他大学の FD 活動の視察（0）
④ その他（9）
　＊ 写真を多く見せた
　＊ 新しい情報を取り入れた
　＊ 講義ノートを作成
　＊ NPO 法人活動への参加
　＊ 公開講座などで聴講生が何を望んでいるかなど学んだ

- 今後取り組もうと考えている FD 活動（回答数/53[総開講数]）

① 他教員の授業参観（7/24）
② 学内外の FD 講演会等への参加（7/24）
③ 他大学の FD 活動の視察（7/24）
④ その他（7/24）
　＊ 新しい取り組みよりも、今の学生を大切に
　＊ もうこの授業はない
　＊ NPO 法人活動への参加

・今期でこの講義も最終となります。どうもありがとうございました。
・設問４、設問 11 が「あまりあてはなまらない」になっているのは、今期は、時間配分を間違えて、シラバスに予告した内容の一部を割愛せざるを得なかったということである。具体的には、社会システム論、ジェンダー論、消費社会論という三つの分野を講義する予定であったが、時間がなくなってしまい、消費社会論については割愛せざるを得なかった。ただし、時間がなくなったのは、設問 12 で述べたように、学生からの質問を受け付け、毎回、質問への回答に充分な時間を割いていたからである。受講学生の学力水準はふたを開けてみなければわからないのだから、シラバスに予告した分量を消化できないことがあっても仕方がないと思われる。その際に、むしろ大切なことは、教育の質を落とさないために、量については減らすということもあるということであり、シラバス通りにやるということが金科玉条なのではない。
・受講学生のレベルに高低の差があり、どの程度のレベルに合わせていいのか判断に苦しむことがしばしば。来期から、あまり欲張った内容を考えないことにしたい。
・対話を重視した授業が十分に行えなかった。来年度は自主学習との組み合わせを工夫したい。

・講義資料の点検と充実、板書方法、講義内容の導入など改善を図る。
・毎年点検して、自分なりに良い授業を工夫しているが、学生の学力低下速度の方が、工夫より、はるかに速い。FD 活動は教員、個人の努力であって、全学的に一律にやるものではない。
・授業を補完する資料の作成について大いに努力を払った.
・設問 11 については、試験結果を見ないと回答できない。教・医・工・農のまさに多様な学生に、それぞれ少しはプラスになる授業ができたのでは、と自分では評価している。学生は別の評価課[評価か]も。
・毎年書いていることだが、医学部・農学部から工学部・教育文化学部までのバックグラウンドが大きく異なる 100 名以上の学生を対象とした講義では、学生の理解度やレベルを踏まえた授業を行うのは非常に困難である。基礎知識のレベルに応じて数段階のグループに分けた授業に変えることを、生命科学系の共通教育全体で検討する必要があることを訴えたい。
・DVD を利用した。
・毎回、前回の講義で出た質問点コメントについて A4 一枚にまとめて回答している。その説明に少し時間をとりすぎているきらいがある。OHP プロジェクターの調子が良くない。
・評価できる点は、遅刻（教員自身が）を一度もしなかったこと。学生の質問・要望に可能な限り対応したことです。
・自宅栽培用の植物を 3 種類（3 回）持ち帰らせて自主学習用に供した。
・授業目標が達成されたかどうかの確認の基準をもう少し具体的に示す必要があると思う。次年度の課題としたい。
・２名の教官が屋内外で実施する７種目（約 200 名）を指導することは相当の無理があるため、各種目にイン・リーダー（保健体育科学生）を置き活動を進めている。主にイン・リーダーは、それぞれの種目を専門とする保健体育科の４年生に依頼した。従って、活動内容で不満を言う受講生は見あたらなかった。ただし屋内種目は場所が限られ、特にバレーボールは１面であったため、そこでいかに学習量を確保するかが難しかった。今後の課題である。
・このレポートは、学生の評価の集計結果がフィードバックされてから行った方がより有効な回答が得られるのではないか。設問 11（目標は達成されたか）についても期末のテストやレポートの提出が終了した後でないと判断しかねる部分もあるように思われる。医学の１年生がアカウント取得の関係から授業の第１週目には授業に出席できず、２週目から急に 50 人も受講者が増え、教室変更を余儀なくされる事態があった。この授業として、次年度以降、受講調整を行うか（あるいは学部で区切って２クラスにするか）どうかは課題の１つである。また、共通教育全体としても、第１週からすべての学生がシラバスを確認のうえ出席できるような仕組みとすることは必要であろう。
・既に紙に記入しました。(予習・復習に関しては、講義スライドに準拠した教科書を出版し、利用することで、より深い知識の定着が期待できる。学生の講義毎のレポートに対する質

疑応答が特徴である。（双方向講義）多人数講義は問題とならない。（この講義においては）ただ、登録者が途中で増え（何故？）椅子が足りなくなったことは問題だった。）

・機器を使った学習方法を導入することで、適切に学生に課題を課すことができた。一方で、学習効果を挙げる［上げる］ための研修が必要である。

・授業はマンネリ化の心配がありますが、それ以上に恐ろしいことは教える内容の陳腐化です。教える内容についての研学につとめています。

・学生の自己学習のための宿題や課題をもう少し増やすようにしたい。

第4章　科目ごとのデータ一覧

以下に平成18年度前学期のすべての共通教育科目（238科目）のうち「学生による授業評価」が提出された229科目のデータを掲載する（但し，通年科目の初修外国語の扱いに準じて、医学部のドイツ語科目及び集中講義科目に関しては掲載しない）。又、科目名・担当教員名も掲載せず、科目の順番は質問12（満足度）への評価の高い順に並べ直してある。

評価は「4：あてはまる。3：ややあてはまる。2：あまりあてはまらない。1：あてはまらない。」の4段階評価である。

また，質問項目は以下の12項目である。

A：回答者（学生）自身について
　1　私は75％以上授業に出席した。
　2　私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
　3　私はこの科目の「達成目標」に到達した。
B：担当教員の教え方について
　4　授業はシラバスに沿って行われた。
　5　授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
　6　話し方，板書の仕方，機器又は器具の使い方，等が適切だった。
　7　重要ポイントが明らかで，説明も分かり易かった。
　8　学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
　9　授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。
C：その他
　10　クラスサイズ（受講生数）は適切だった。
　11　学習環境は適切だった。
D：総合的な授業評価
　12　満足できる授業だった。

【1】日本語コミュニケーション（26科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	4.0	3.9	3.4	3.6	4.0	3.9	3.9	4.0	3.5	4.0	3.9	4.0
2	4.0	4.0	3.6	3.5	4.0	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
3	4.0	4.0	2.8	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	4.0	4.0
4	4.0	3.9	3.2	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.9	3.4	3.9
5	4.0	3.7	3.2	3.6	3.6	3.6	3.5	3.4	2.8	4.0	3.9	3.8
6	4.0	4.0	3.6	2.9	4.0	2.9	3.8	3.6	3.4	4.0	3.9	3.7
7	4.0	4.0	3.8	3.8	3.6	4.0	4.0	4.0	3.6	3.8	4.0	3.6
8	4.0	3.5	2.9	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.3	3.7	3.7	3.5
9	4.0	3.6	3.3	3.8	3.7	3.7	3.6	3.3	3.1	3.6	3.7	3.5
10	4.0	3.5	3.0	3.3	2.9	2.7	2.3	2.4	2.2	3.7	3.6	3.4
11	3.9	3.7	3.5	3.4	3.6	3.7	3.7	3.4	3.1	3.5	3.7	3.3
12	3.9	3.2	3.1	2.8	3.2	3.1	3.1	2.9	2.0	3.8	3.6	3.3
13	4.0	3.8	3.5	3.3	3.5	3.4	3.1	3.1	3.1	3.6	3.5	3.3
14	4.0	3.6	3.4	3.5	3.4	3.4	3.3	3.4	3.2	3.7	3.5	3.3
15	3.9	3.6	3.3	3.4	3.5	3.3	3.1	3.1	3.2	3.6	3.6	3.3
16	4.0	3.6	3.6	3.3	3.3	3.4	3.1	3.3	3.5	3.7	3.0	3.2
17	4.0	3.7	3.3	3.4	3.7	3.4	3.3	3.1	3.0	3.7	3.5	3.2
18	3.9	3.4	2.5	3.4	3.2	3.5	3.1	2.8	3.2	3.4	3.2	3.1
19	4.0	3.6	3.1	3.2	3.2	2.9	2.8	3.2	2.8	3.7	3.5	3.1
20	4.0	3.8	3.0	3.7	3.7	3.8	3.6	2.8	2.9	3.3	3.1	3.1
21	4.0	3.6	3.2	3.4	3.2	3.3	3.0	2.9	3.2	3.6	3.5	3.1
22	4.0	3.6	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.1	3.2	3.7	3.4	3.0
23	4.0	3.5	3.4	3.4	3.7	3.1	3.1	2.5	3.0	3.7	3.5	3.0
24	3.9	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.2	2.9	2.9	3.4	3.6	3.0
25	3.9	3.4	3.0	3.6	3.2	3.1	3.1	2.5	2.9	3.6	3.6	3.0
26	4.0	3.4	2.9	3.7	3.4	3.4	3.2	2.9	2.9	3.4	3.4	3.0

※未提出の科目はない。

【2】情報科学入門（20科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	3.9	3.7	3.6	3.8	3.7	3.7	3.7	3.5	3	4.0	4.0	3.7
2	4.0	3.7	3.5	3.8	3.5	3.4	3.5	3.4	3.2	3.9	3.9	3.7
3	3.9	3.6	3.1	3.6	3.7	3.8	3.6	3.4	2.9	4.0	3.8	3.6
4	4.0	3.7	3.5	3.5	3.6	3.4	3.4	3.3	3.4	3.9	3.7	3.6
5	4.0	3.6	3.5	3.6	3.3	3.3	3.3	3.5	3.1	3.7	3.7	3.6
6	4.1	3.8	3.5	3.7	3.7	3.5	3.5	3.6	3.3	3.9	3.8	3.5
7	4.0	3.7	3.4	3.5	3.5	3.4	3.3	3.1	2.8	3.4	3.4	3.5
8	3.9	3.4	3.1	3.8	3.1	3.5	3.1	3.2	3.2	3.5	3.6	3.5
9	3.9	3.3	3.1	3.7	3.5	3.6	3.3	3.1	3.1	3.7	3.8	3.5
10	3.9	3.6	3.2	3.5	3.3	3.2	3.2	3.0	2.7	3.6	3.5	3.4
11	3.9	3.7	3.3	3.2	3.1	3.0	2.6	2.9	2.4	3.9	3.7	3.3
12	3.9	3.5	3.2	3.6	3.1	3.2	2.9	3.2	3.2	3.4	3.6	3.3
13	3.9	3.8	3.3	3.5	3.1	3.4	3.0	3.0	3.2	3.6	3.5	3.3
14	4.0	3.5	3.2	3.8	3.3	3.6	3.4	3.0	2.7	3.9	3.0	3.2
15	4.0	3.2	3.1	3.8	2.8	2.9	2.7	2.9	2.6	3.8	3.8	3.2
16	3.8	3.6	2.9	3.6	2.6	3.0	2.8	2.7	2.6	3.5	3.6	3.0
17	3.9	3.4	3.1	3.2	2.6	2.4	2.3	2.4	2.9	3.6	3.5	2.8
18	4.1	3.3	3.3	3.6	2.8	2.9	2.4	2.5	2.5	3.9	3.8	2.6
19	4.0	3.6	3.2	3.3	2.4	1.9	1.9	2.0	2.1	3.4	3.3	2.5
20	4.0	3.4	3.0	2.9	2.3	2.3	1.8	1.9	2.4	3.5	3.3	2.3

※3 科目が未提出。

【3】英語（31科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	3.9	3.8	3.4	3.6	3.8	3.9	3.6	3.9	3.3	3.8	3.9	3.9
2	3.9	3.7	3.4	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.5	4.0	3.8	3.8
3	3.9	3.8	3.3	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
4	3.6	3.3	3.1	3.8	3.0	3.7	3.7	3.8	3.7	3.2	3.8	3.8
5	4.0	3.7	3.5	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7	3.3	3.6	3.7	3.8
6	4.0	3.8	3.4	3.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7
7	4.0	3.3	3.1	3.5	3.5	3.6	3.3	3.6	3.3	4.0	3.7	3.7
8	4.0	4.0	3.2	3.8	3.7	3.8	3.6	3.6	3.6	3.9	3.8	3.7
9	3.9	3.2	3.3	3.6	3.6	3.2	3.2	3.1	3.5	3.9	3.8	3.6
10	4.0	3.5	3.1	3.6	3.7	3.5	3.6	3.5	2.8	3.7	3.8	3.6
11	4.0	3.6	3.3	2.9	3.4	3.4	3.4	3.1	3.5	3.9	3.8	3.5
12	3.9	3.2	2.6	3.7	3.5	3.6	3.6	3.6	2.9	3.9	3.7	3.5
13	3.9	3.5	3.1	3.7	3.4	3.6	3.5	3.5	3.2	3.5	3.5	3.5
14	3.9	3.0	2.8	3.8	3.5	3.4	3.3	3.4	2.4	3.8	3.9	3.5
15	3.9	3.5	3.0	3.5	3.6	3.6	3.7	3.5	3.6	3.8	3.8	3.4
16	3.9	3.5	3.1	3.8	3.6	3.4	3.3	3.1	3.4	3.8	3.5	3.4
17	3.9	3.3	2.4	3.7	3.2	3.3	3.2	3.2	2.6	3.8	3.6	3.4
18	4.0	3.3	2.8	3.6	3.2	3.4	3.1	3.2	3.3	3.4	3.1	3.3
19	3.8	3.3	2.4	3.5	3.0	3.4	3.0	3.4	3.4	3.8	3.8	3.3
20	4.0	3.8	3.2	3.6	3.2	3.2	3.1	3.1	3.5	3.8	3.8	3.3
21	3.9	3.2	2.7	3.6	3.4	3.6	3.1	3.1	3.4	3.7	3.9	3.2
22	3.9	3.3	2.7	3.4	3.2	3.1	3.2	2.9	3.3	3.5	3.3	3.1
23	4.1	3.1	2.6	3.1	3.1	3.1	2.7	2.9	2.8	3.3	3.4	3.1
24	4.0	3.1	2.8	3.5	3.2	3.0	3.0	2.8	3.3	3.5	3.0	3.0
25	3.9	3.0	2.7	3.5	3.2	2.9	2.7	2.6	3.0	3.3	3.4	3.0
26	4.0	3.2	2.8	3.5	3.1	3.3	2.9	2.8	3.3	3.7	3.4	3.0
27	3.9	3.2	2.6	3.2	3.1	3.2	2.7	2.9	2.6	3.8	3.7	3.0
28	3.9	3.1	2.7	3.4	3.3	2.8	3.0	2.7	3.3	3.6	3.7	2.9
29	3.9	3.4	2.6	3.5	3.1	2.9	2.7	2.5	3.1	3.6	3.6	2.8
30	4.0	3.2	2.5	3.1	2.8	2.4	2.3	2.2	3.3	3.6	3.5	2.5
31	3.9	2.7	2.3	2.6	2.6	2.2	2.4	2.2	2.2	3.8	3.6	2.4

※未提出の科目はない。

【4】コミュニケーション英語（28科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	4.0	3.9	3.3	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	3.5	4.0	3.9	4.0
2	4.0	3.5	3.2	3.7	3.7	3.7	3.4	3.7	3.1	3.8	3.7	3.9
3	4.0	3.7	3.3	3.8	3.8	3.8	3.6	3.9	3.4	3.8	3.8	3.9
4	4.0	3.7	3.6	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.9	3.5	3.9
5	4.0	3.8	3.4	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.7	3.8	3.5	3.9
6	3.9	3.7	3.4	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	3.1	3.8	3.7	3.8
7	3.8	3.6	3.1	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.8	3.8
8	3.9	3.4	2.7	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.3	3.4	3.7	3.7
9	4.0	3.7	3.4	3.7	3.7	3.6	3.7	3.5	3.4	3.6	3.7	3.7
10	4.0	3.3	2.8	3.5	3.7	3.3	3.2	3.5	3.3	3.8	3.8	3.6
11	4.0	3.5	2.9	3.8	3.5	3.6	3.2	3.5	2.7	3.7	3.8	3.6
12	3.8	3.7	3.0	3.7	3.4	3.5	3.2	3.4	3.3	3.5	3.4	3.6
13	4.0	3.8	3.2	3.7	3.6	3.5	3.3	3.4	3.6	3.9	3.8	3.6
14	4.0	3.3	2.8	3.6	3.6	3.8	3.7	3.4	3.5	3.8	3.6	3.5
15	4.0	3.5	2.7	3.7	3.4	3.6	3.2	3.6	3.5	3.9	3.7	3.5
16	4.0	3.4	3.1	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.7	3.6	3.8	3.5
17	4.0	3.8	3.0	3.7	3.4	3.7	3.3	3.2	3.3	3.8	3.9	3.4
18	4.0	3.4	2.8	3.4	3.5	3.7	3.5	3.4	3.3	3.8	3.7	3.4
19	3.9	3.2	2.9	3	3.6	3.7	3.5	3.2	3.5	3.7	3.6	3.4
20	4.0	3.7	2.7	3.7	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.8	3.7	3.4
21	3.9	3.3	2.8	3.4	3.4	3.2	2.9	3.1	3.2	3.7	3.6	3.4
22	3.9	3.2	3.1	3.5	3.7	3.3	3.5	3.0	3.4	3.8	3.8	3.3
23	4.0	3.3	3.0	3.6	3.6	3.6	3.5	3.1	3.6	3.4	3.5	3.3
24	4.0	3.2	2.3	3.6	3.6	3.3	3.2	2.8	3.5	3.8	3.8	3.3
25	3.9	3.2	2.8	3.4	3.2	3.3	2.9	3.0	3.0	3.4	3.5	3.2
26	4.0	3.4	2.7	3.3	3.0	3.1	2.9	3.0	3.3	3.7	3.5	3.0
27	3.7	3.1	2.6	3.5	3.2	2.6	2.8	2.6	3.0	3.6	3.4	2.9
28	3.9	3.4	2.5	3.1	3.0	2.1	2.2	2.1	3.3	3.8	3.7	2.4

※未提出の科目はない。

【5】健康スポーツ科学（25 科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	4.0	3.9	3.7	3.7	3.6	3.7	3.5	3.4	2.8	3.5	3.6	3.8
2	4.0	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.6	3.2	3.5	3.7	3.8
3	4.0	3.9	3.7	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7	2.8	3.6	3.8	3.7
4	4.0	3.8	3.7	3.9	3.8	3.8	3.5	3.7	3.1	3.6	3.5	3.7
5	4.0	3.8	3.6	3.8	3.8	3.6	3.6	3.4	2.9	3.6	3.3	3.7
6	3.9	3.8	3.4	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6	2.7	3.7	3.6	3.7
7	4.0	3.9	3.7	3.8	3.7	3.7	3.4	3.6	3.1	3.6	3.4	3.7
8	4.0	3.9	3.4	3.7	3.7	3.5	3.4	3.4	2.9	3.3	3.2	3.6
9	4.0	3.8	3.5	3.9	3.7	3.7	3.8	3.7	2.8	3.6	3.6	3.6
10	4.0	3.8	3.6	3.8	3.6	3.6	3.5	3.6	3.2	3.1	3.4	3.6
11	4.0	3.8	3.7	3.8	3.7	3.6	3.5	3.5	2.7	3.7	3.4	3.6
12	3.9	3.7	3.3	3.5	3.2	3.3	3.1	3.1	2.6	3.4	3.2	3.6
13	4.0	3.8	3.7	3.8	3.5	3.5	3.3	3.4	2.8	3.8	3.5	3.5
14	3.9	3.8	3.5	3.7	3.7	3.5	3.4	3.4	2.7	3.6	3.5	3.5
15	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.3	3.4	2.8	3.5	3.4	3.5
16	3.9	3.9	3.5	3.7	3.5	3.7	3.5	3.4	3.1	3.6	3.7	3.5
17	4.0	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.4	3.2	3.4	3.5	3.5
18	3.9	3.8	3.7	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.1	3.4	3.6	3.5
19	4.0	3.6	3.6	3.7	3.8	3.8	3.6	3.4	3.0	3.6	3.4	3.5
20	4.0	3.8	3.5	3.6	3.8	3.6	3.5	3.5	2.7	3.7	3.4	3.5
21	4.0	3.7	3.5	3.7	3.5	3.3	3.4	3.4	2.8	3.5	3.6	3.5
22	3.9	3.8	3.5	3.8	3.5	3.6	3.4	3.4	3.1	3.4	3.5	3.4
23	3.9	3.5	3.4	3.6	3.4	3.4	3.2	3.3	2.7	3.2	3.3	3.4
24	3.8	3.5	3.3	3.4	3.4	3.3	3.2	3.1	2.7	3.5	3.3	3.4
25	3.3	3.2	2.7	3.1	3.1	2.9	2.9	2.9	2.5	3.1	2.9	3.0

※未提出の科目はない。

【6】主題教養科目（現代の社会と倫理）（4 科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	3.9	3.5	3.4	3.7	3.4	3.4	3.4	3.3	2.9	3.6	3.7	3.5
2	4.0	3.5	3.1	3.5	3.4	3.3	3.2	3.3	2.8	3.3	3.4	3.3
3	3.9	3.4	3.2	3.6	3.2	3.2	3.2	3.2	2.8	3.2	3.4	3.3
4	3.9	3.4	3.3	3.7	3.6	3.4	3.1	3.1	2.5	3.4	3.3	3.1

※未提出の科目はない。

【7】主題教養科目（人間と文化）（10 科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	3.8	3.2	3.3	3.5	3.6	3.5	3.3	3.5	2.8	3.6	3.5	3.6
2	4.0	3.1	2.9	3.6	3.3	3.4	3.2	3.1	2.8	3.5	3.6	3.4
3	3.8	3.3	3.0	3.2	3.4	3.3	3.2	3.2	2.8	3.5	3.5	3.3
4	3.8	3.2	3.2	3.6	3.5	3.3	3.3	3.0	2.9	3.3	3.6	3.3
5	4.0	3.2	3.1	3.5	3.2	3.0	2.8	2.9	2.3	2.8	3.1	3.0
6	3.9	3.3	3.0	3.3	3.3	3.1	3.1	2.9	2.7	2.8	3.3	2.9
7	3.9	3.1	2.7	3.3	2.5	2.8	2.4	2.4	2.3	3.4	3.4	2.7
8	3.8	2.5	2.6	3.4	2.5	2.2	2.5	2.2	2.1	3.4	3.0	2.5
9	3.8	3.3	2.2	2.9	1.7	2.0	1.7	1.9	2.2	3.3	3.4	2.0
10	3.9	3.0	2.7	2.3	2.3	2.1	1.9	1.8	2.0	3.0	3.0	2.0

※2 科目が未提出。

【8】主題教養科目（現代社会の課題）（9 科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	3.8	3.4	3.4	3.8	3.7	3.4	3.4	3.3	2.8	3.7	3.8	3.5
2	3.9	2.8	2.9	3.4	3.4	3.0	3.1	3.1	2.5	3.6	3.7	3.3
3	3.8	3.1	2.7	3.5	3.3	3.2	3.2	2.9	2.6	3.6	3.7	3.2
4	3.8	3.0	2.9	3.6	3.6	3.3	3.4	3.1	2.3	3.6	3.5	3.2
5	3.9	3.4	3.0	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	2.9	3.3	3.4	3.1
6	4.0	3.2	2.9	3.5	3.2	3.1	3.0	2.9	2.6	3.5	3.5	3.1
7	3.9	3.1	3.0	3.4	3.3	3.2	3.1	2.9	2.6	2.8	3.4	3.1
8	3.9	3.3	2.9	3.5	3.1	3.0	3.0	2.8	2.8	3.1	3.4	3.0
9	3.9	3.2	3.0	3.3	3.0	3.0	2.7	2.9	2.6	3.1	3.2	2.9

※1 科目が未提出。

【9】主題教養科目（自然と生命）（22 科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	4.0	3.5	3.2	3.8	3.7	3.7	3.5	3.1	2.7	3.7	3.8	3.5
2	3.8	3.7	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.2	3.0	3.4	3.5	3.4
3	4.0	3.5	3.1	3.6	3.4	3.5	3.5	3.2	3.0	3.4	3.3	3.4
4	3.8	3.6	3.3	3.5	3.3	3.4	3.4	3.3	3.1	3.1	3.5	3.3
5	3.9	3.4	3.1	3.2	3.3	3.1	3.2	3.1	2.8	3.2	3.4	3.3
6	3.7	3.5	3.0	3.6	3.4	3.4	3.2	2.9	3.1	3.3	3.4	3.2
7	3.7	3.1	2.8	3.6	3.3	3.5	3.3	3.0	2.9	3.0	3.1	3.2
8	3.9	3.2	3.1	3.6	3.2	3.5	3.3	2.9	3.4	3.4	3.2	3.2
9	3.8	3.1	3.0	3.7	3.5	3.6	3.2	3.0	2.8	3.6	3.6	3.2
10	3.9	2.8	2.7	3.8	3.1	3.4	2.8	2.9	2.6	3.3	3.2	3.1
11	3.8	3.4	2.9	3.4	3.3	3.1	3.1	2.8	3.1	3.3	3.4	3.1
12	4.0	3.3	2.9	3.7	3.0	3.1	2.9	2.9	3.3	3.3	3.5	3.1
13	3.8	3.3	3.1	3.4	3.2	3.3	2.9	2.9	3.1	3.6	3.5	3.1
14	3.9	2.9	2.6	3.7	3.2	3.2	3.0	2.9	2.7	3.8	3.7	3.0
15	3.9	3.2	3.1	3.5	3.1	3.1	2.9	2.7	2.8	3.4	3.5	3.0
16	3.8	3.5	3.1	3.5	3.0	3.1	2.8	2.7	2.8	3.1	2.1	2.9
17	4.0	3.5	2.8	3.7	3.1	3.1	3.0	2.7	2.9	3.0	3.3	2.9
18	4.0	2.8	2.5	3.6	2.3	3.2	2.6	2.6	3.0	3.6	3.6	2.8
19	3.8	3.1	2.9	3.3	3.0	2.5	2.6	2.4	2.7	3.3	3.3	2.7
20	3.8	3.0	2.3	3.0	2.7	2.9	2.5	2.6	2.2	3.4	3.5	2.7
21	3.8	2.8	2.5	3.3	2.7	2.8	2.5	2.5	2.5	3.7	3.8	2.6
22	4.0	3.2	2.6	3.1	2.2	2.2	2.1	2.0	2.6	3.5	3.6	2.3

※未提出の科目はない。

【10】選択教養科目（文化社会系）（11 科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	3.9	3.5	3.4	3.6	3.5	3.4	3.4	3.5	3.1	3.5	3.5	3.5
2	3.8	3.5	2.9	3.7	2.9	3.1	3.1	3.3	2.6	3.8	3.7	3.4
3	3.7	3.4	3.1	3.6	3.6	3.6	3.6	3.4	2.8	3.2	3.5	3.3
4	3.9	3.1	3.3	3.4	3.2	3.1	3.2	3.2	2.6	3.3	3.6	3.3
5	3.9	3.5	3.3	3.6	3.5	3.3	3.3	3.1	2.6	3.1	3.3	3.3
6	3.9	3.1	3.3	4.0	3.3	3.1	3.6	3.7	3.9	3.1	3.1	3.3
7	3.8	3.1	2.9	3.3	3.2	2.8	2.9	2.9	2.5	3.0	3.0	3.1
8	3.7	3.3	3.1	3.6	3.4	3.0	3.0	2.9	2.4	3.4	3.4	3.0
9	3.9	3.1	3.0	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	2.7	3.4	3.5	3.0
10	3.3	3.2	2.4	3.3	2.8	2.4	2.6	2.8	3.0	3.2	3.5	2.9
11	3.5	3.0	2.2	3.4	2.3	2.1	2.5	2.3	2.2	3.4	3.5	2.7

※2科目が未提出。

【11】選択教養科目（科学技術系）（12科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	3.9	3.5	3.1	3.6	3.2	3.2	3.3	3.2	2.6	3.8	3.6	3.2
2	3.6	3.3	2.5	3.5	2.9	3.1	2.8	3.1	2.7	3.2	3.8	3.2
3	3.8	3.4	3.0	3.4	3.1	3.3	3.2	3.1	3.1	3.5	3.5	3.1
4	3.8	3.0	3.0	3.2	3.3	3.1	3.0	2.8	2.9	3.5	3.7	3.1
5	4.0	3.0	3.1	3.5	3.4	3.3	3.5	3.3	2.6	3.6	3.4	3.1
6	3.9	3.3	3.0	3.5	3.2	3.2	3.0	3.2	3.4	3.0	3.3	3.0
7	3.9	3.3	3.1	3.6	3.2	2.9	3.3	2.7	2.8	3.5	3.4	3.0
8	3.7	3.0	2.7	3.2	2.8	2.7	2.9	2.5	2.2	2.9	1.8	2.8
9	3.8	3.1	2.8	3.4	2.6	2.6	2.4	2.5	2.7	3.3	3.4	2.8
10	3.7	3.3	3.0	3.2	2.5	2.8	2.5	2.7	2.3	3.5	3.4	2.8
11	3.5	3.3	2.3	3.3	2.4	2.6	2.4	2.7	2.1	3.5	3.5	2.5
12	3.8	3.3	2.5	2.8	1.8	2.3	1.8	1.8	2.5	3.0	3.5	2.3

※1 科目が未提出。

【12】選択教養科目（生命科学系）（7科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	4.0	4.0	3.8	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.5	4.0	3.9	3.8
2	3.9	3.5	3.5	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.2	2.8	3.2	3.8
3	3.9	3.2	2.9	3.5	2.9	3.5	3.4	3.5	2.9	3.7	3.5	3.6
4	3.8	3.5	3.3	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5	2.7	3.1	3.4	3.6
5	3.9	3.5	3.3	3.7	3.6	3.7	3.5	3.3	3.1	3.4	3.6	3.6
6	4.0	3.9	3.7	3.4	3.8	3.5	3.3	3.4	3.0	3.5	3.5	3.5
7	3.9	3.9	3.7	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7	3.3	3.7	3.5	3.5

※ 未提出の科目はない。

【13】選択教養科目（複合学際系）（3科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	3.9	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3	3.2	2.6	3.6	3.6	3.5
2	3.7	3.6	3.7	3.5	3.4	3.3	3.2	3.4	3.2	3.0	3.3	3.4
3	3.9	3.4	3.1	3.6	3.7	3.5	3.4	3.3	2.8	3.0	3.1	3.4

※ 未提出の科目はない。

【14】選択教養科目（生涯学習系）（5科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	4.0	3.3	2.9	3.7	3.2	3.4	3.1	3.0	2.6	3.7	3.7	3.3
2	3.5	3.2	3.2	3.4	3.1	3.3	3.1	3.3	2.7	3.5	3.6	3.3
3	3.7	3.0	3.1	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	2.8	3.5	3.5	3.3
4	3.9	3.4	3.1	3.5	2.8	3.2	2.9	3.0	2.8	3.4	3.4	3.0
5	3.8	3.3	2.9	3.4	3.1	3.1	3.0	2.9	2.8	3.5	3.6	3.0

※ 未提出の科目はない。

【15】選択教養科目（外国語系）（8科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	4.0	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	4
2	3.7	3.8	2.9	3.4	3.2	3.6	3.9	3.6	3.5	3.6	3.9	3.9
3	3.9	3.7	2.8	3.5	3.1	3.5	3.2	3.5	3.7	3.7	3.8	3.7
4	3.9	3.9	3.1	3.7	3.1	3.2	2.7	3.1	3	3.5	3.8	3.5
5	4.0	3.5	3.1	3.6	3.6	3.4	3.4	3.2	3.3	3.9	3.9	3.5
6	3.6	3.2	2.7	3.3	3.1	3.2	3.2	3.0	3.2	3.2	3.3	3.2
7	3.9	3.6	3.3	3.6	3.6	3.3	3.0	2.8	2.9	3.5	3.5	3.2
8	4.0	3.4	2.9	3.4	3.1	3.3	3.2	3.0	3.5	3.6	3.5	3.2
9	4.0	3.9	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0

※1 科目が未提出。

【16】専門基礎科目（3科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	3.8	3.4	3.3	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.3	3.5	3.6	3.8
2	4.0	3.5	3.4	3.7	3.8	3.7	3.6	3.5	3.6	3.8	3.9	3.8
3	4.0	3.8	3.6	3.9	3.0	3.3	3.0	3.3	3.0	3.5	3.5	3.3

※未提出の科目はない。

【17】日本語・日本事情（5科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12
1	4.0	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	3.8	4.0	4.0	4.0
2	3.8	3.8	3.6	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8	3.6	4.0	3.8	4.0
3	4.0	3.2	3.3	3.8	3.2	3.3	4.0	3.7	3.5	3.8	4.0	3.8
4	3.2	3.6	3.8	4.0	4.0	4.0	3.2	4.0	3.2	2.4	4.0	3.2
5	3.7	3.3	3.0	4.0	4.0	2.7	4.0	4.0	3.3	4.0	4.0	2.7

※未提出の科目はない。

第5章　18 年度からの新たな取り組み

【5-1】WEB 入力による授業評価アンケートの一部実施（「情報科学入門」）

従来までの紙による授業評価アンケートでは、マークシート方式の回答項目はスキャナ読み取りによって満足の行くデジタル化が出来ていたが、学生の自由記述蘭はこの方式ではデジタル化出来ず、各教員が集計後に参照するだけに終わっていた。教員の個人的 FD には繋がっても、学生からの具体的意見が全体で共有され、それによってシステムとしての改善に資するということは果たされてこなかった。又、授業担当教員が用紙を配布し、アンケートを実施するという形式では、学生が教員の目を気にして中々「本音」を書かないのではないか、ということは夙に指摘もされていた。

これらの不備を補うという趣旨及び事務処理の効率化の観点から、将来における本格導入をも睨んで、先ずは授業で PC 端末を利用していてデータ収集が容易だと判断された「情報科学入門」科目において、本年度から学生の授業評価を Web 入力する方法を暫定・試行的に実施した。評価項目に対する回答は Web ページ上から入力され、これはそのままデジタルデータとして集計されて、担当者に返却されている。

この暫定・試行的実施の結果を踏まえて、今後の授業評価アンケートの採り方を含めた改善方策等に関しては、自己点検・評価委員会で目下議論が始まってはいるが、最終結論に至るまでには技術的な面も含めて今暫く慎重な議論が必要であろう。尚、入力に際して学生に対しては「この調査は教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ることを目的としています。記入にあたっては、真剣に、かつ、率直な評価をしてください。なお、この調査とあなたの成績とは一切関係ありません。また. この調査は共通教育部自己点検・評価委員会が管理しますのであなたの回答の守秘は保証されます。」という但し書きを入力初期画面に掲げて率直な意見表出を求めたということもあり、以下では個々の具体的な生の意見を列挙する方法は採らず、一先ず今回の新たな試みの粗々の結果を紹介するに止める。

「情報科学入門」は、大学教育基礎科目の一つとして、全学部必修科目として一年時前学期に実施されており、Web 入力によるアンケート結果を含めた学部毎の実施状況の概略は次の表の通りである。

学部名	開講数	受講者数	Web 入力実施クラス数	Web による回答者数	Web による回答数*
教育文化学部	6	247	0	0	0
医学部	2	161	1	85	45
工学部	7	186	3	131	194
農学部	8	174	5	167	75

＊上記「回答数」は、「特になし」等のコメントは原則 1 項目として取り扱ってあり、粗々の概数だと理解されたい。

授業科目開講数と Web 入力実施クラス数とに違いがあるのは、Web 入力実施のクラス以外は紙によるアンケートを実施したクラス（アンケート実施が何らかの理由で期間内に行われなかったクラスも含む）であることを示しており、それらに関しては自由記述欄の打ち出し集計は行われていないので、従来通りアンケート結果は担当者に直接返却され、自由記述欄の内容は授業担当者のみが把握しているということになる。

次に Web によるアンケート入力を実施したクラスのみに限って観てみると、次のようになる。

学部名	Web 入力実施クラス数	受講者数	Web による回答者数	Web による回答数 (*)			
				項目 A	項目 B	項目 C	項目 D
医学部	1	101	85	11	9	9	16
工学部(A)	3	51	49	35	54	49	56
工学部(B)		36	34				
工学部(C)		59	48				
農学部(A)	5	32	32	9	28	12	26
農学部(B)		32	29				
農学部(C)		34	31				
農学部(D)		38	38				
農学部(E)		38	37				
計	9	421	383	55	91	70	98

*「項目 A」：（受講・勉学態度）；「項目 B」：（担当教員の教授技法や授業内容）；「項目 C」：（学習環境（クラスサイズを含む））；「項目 D」：（その他、この授業について、よかったこと、改善を求めたいこと等）

以上を踏まえて少しく概評を加えるとすると、例えば次のようになるであろうか。

① 医学部と工学部(C)を除き、受講者の概ね全員が Web による回答を行っている。

② 項目でいうと、「項目 D（その他、この授業について、よかったこと、改善を求めたいこと等）」が、医学部及び工学部で最も多く、それに「項目 B（担当教員の教授技法や授業内容）」が続いている。一方、農学部は「項目 B」の方が「項目 D」よりやや多い。「項目 C（学習環境（クラスサイズを含む））」は、医学部・工学部では「項目 B」及び「項目 D」と大差なく多いが、農学部ではかなり少ない。又、「項目 A（受講・勉学態度）」も医学部・工学部では多く、農学部では少ない。

③ 全体として観ると、「項目 D」（98）が最も回答数が多く、それに「項目 B」（91）・「項目 C」（70）・「項目 A」（55）の順で続いている。

但し、今回の報告においては、それぞれの項目数やその内容に踏み込んで検討することが趣旨ではないので、上記の様な分析も参考程度に掲げたに過ぎない。他の科目の従来方式のアンケートの場合の自由記述欄の書き込み状況と正確に比較することは不可能なので断定的なことは言えないが、紙のアンケートの場合と比べるとその書き込みの分量がかなり多いという印象は、上の表の数字から判断しても概ね過ってはいないであろうし、紙の上に授業の最後で短時間に書き入れる場合（殆ど自由記述がない場合も多い）と比べれば、かなり具体的な意見が表明されているのも生データを読むと明らかに窺えることである。

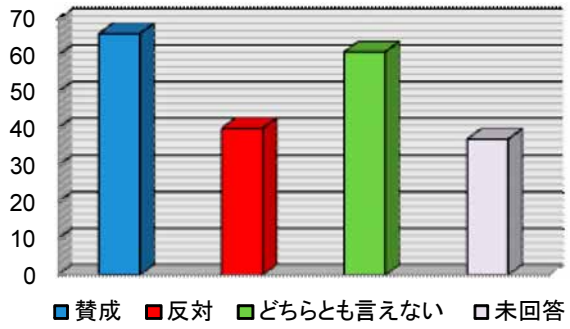
以上のことから、今回暫定・試行的に行った Web 入力による授業評価アンケートの試みは、従来の紙によるそれの場合よりも一層詳細且つ具体的に学生の当該授業に対する感想や意見を引き出すことに成功しているのは間違いないと思われる。その一方で、技術面以外での問題点が浮かび上がってきているのも事実である。特に、匿名性と回答への守秘保証という二重の保護があると感じるためなのか、担当教員の教授技法や授業内容に関して、学生の好悪（とりわけ否定的な「悪」）がかなりはっきりと書き込まれている場合が散見され、中には相当感情的な表現や揶揄的なものまで認められる。学生が授業中に何らかの被害や不利益を蒙ったと強く感じている場合には、それに対する「鬱憤晴らし」の要素が見られるということは、確かに教員の教え方や接し方にその原因の一端があるとはいえ、学生からの責任ある授業改善意見として取り上げ考慮することを躊躇させる要素を含んでもいるということである。善処は中々容易ではないが、当事者による良識ある前向きな改善意見が最も具体的な FD 活動に繋がる訳でもあるし、今後少しでも健全な方向で進めてゆく方策を模索し続けなければならないであろう。委員会のこれまでの議論においても、この辺りのことをどう捉えて対処してゆくべきか、学生の感想や意見を生データとして授業評価報告書に盛り込むべきかどうかということについても賛否が分かれて決着していないが、この項の初めにも書いた通り、「学生からの具体的意見が全体で共有され、それによってシステムとしての改善に資するということ」が、透明性の高い・より良い FD 活動への進むべき方向であるのならば、今回の暫定・試行的 Web による授業評価アンケートの収集方法は、技術面での難点を抱えてはいるものの、かなりの有効性が期待できる方法ではないかと考えられる。

【5-2】授業評価結果の公開の是非について（教員へのアンケート結果）

平成 17 年度段階から、学生による授業評価に纏わる次の段階の検討事項として評価結果の公開［公表］の如何が自己点検・評価委員会で議論となった。これを承けて、18 年度前学期終了時に、この件に関して Web による教員への意見聴取を行い、目下その結果に基づき委員会で議論を深めている段階である。賛否両論ある中、委員会としても未だ中々決定的な結論を出し成案を得る段階にはないが、取り敢えず本報告書においてアンケート結果を公表し、今後の全学的議論の参考に供することとする。

【集計結果】

回答総数	賛成	反対	どちらとも言えない	未回答
204 名	66 名	40 名	61 名	37 名



【具体的意見】

＊ 以下の意見の内、明かに同一教員による、複数科目における同一内容の文言だと判断できるもの、或いは、クラス名が特定できる記述等に関しては、重複部分の削除或いは修正等の措置を加えて示してある。又、文体は敢えて統一しなかったが、明かな入力･変換による誤記或いは文意が曖昧な個所は、原文の後ろに[ ]で括って正し、句読点を揃える等の編集を適宜施した。

●【賛成】

・他人の目を意識しないと向上しません。

・条件付で公表に賛成：教員の個人情報が分からないようよう配慮する。また、過激な内容・言葉遣いのものは公表しないようにすべき。この２つの条件が満たされれば公表した方がよいと考えます。

・自分の授業の改善につながる。

・アンケートは公表して初めてアンケートに協力してくれた回答者に意義を感じさせるものである。

・学生がいい加減な回答するので公表は望ましくないとの意見がありますが、このような学生は

少数と思います。まじめに意見を述べても、どのように反映されているかを学生が確認するには、公表しかありません。公表は当然のことと考えます。公表することにより、自分の意見に対して教員がどう考えているかがわかり、アンケートをまじめに回答する学生は増えると思います。

・自分で自分の評価の位置づけを知りたい。どの先生（講義）が評価が高いかを知り、参考にしたい（場合によっては評価の高い先生に直接話を伺いたい）。
・学生に協力を求めている以上、学生に開示すべきである。
・教員の授業に対する意欲が増すと思う。
・教員・学生相互の意見・評価を聞いて、さらにいい授業をめざすのは自然なこと。
・公表することで自分の講義がどのような位置にあるかがより明確になる。また、学生の回答姿勢も真摯なものになることが期待できる。
・学生が科目を選ぶ際の参考になる。教員の意識向上につながる。
・公表することにより、授業の実態が共有できる。授業者も公表されることを前提に、今まで以上に研鑽に励むことが出来る。
・１、学生がどの様なニーズを持っているか理解できると思う。２、他の教員の講義についての学生の評価があれば講義を参考にさせていただく上で講師の判断材料になる。（講義を受けさせてもらいたい時に頼みやすい！？）
・より高い評価を得ようと努力するようになるから。
・公表すべきだと思うが、公表に値する（あるいは公表に耐えうる）ような適正な評価を学生が行えているか、評価項目は適切かどうかなどの検討が必要であろう。例えば、教室の空調についてはその都度申し出て、自分たちで自由に調整するように言ってあるにもかかわらず、クーラーが効きすぎて寒いといったようなことばかりがあがる[挙がる]ような評価ではどうかと思われる。
・授業評価のアンケート結果を、なるべく早く、学生にフィードバックすることは必要不可欠です。そのことなしに、学生に対して、「アンケートにまじめに回答するように」と言っても意味がありません。学生の授業改善の意欲を高めるとともに、学生と教員のコミュニケーションを促進するためにも、授業評価アンケート結果を公表することは必要不可欠です。
・更なる改善につなげるため。
・公表しないと授業評価がいい加減なものになってしまうと思われる。
・学生自身も他の学生がどのような感想を持っていたのか傾向を知ることが出来る。教員にとっては、評価の高い先生に講義方法について質問したりする機会となる。質の高い講義を実施していることを全国的にアピールする手段となる。
・学生に、自分たちのアンケートが生きて[活きて]いること、自分の感じ方が正しかったこと等を知らせた方が良い。
・公表した方が良いが公表の方法は検討する必要がある。○学内にどんな良い授業が行われているか、評価の高い授業があるか、その内容はどうかなどを公表する。○どんな改善の要求があるか、問題はどこか、がわかるような公表が望ましい。
・学部の FD 委員として、「学生による授業評価」の結果の集計にあたった経験から、自分の授業の結果だけでなく他の授業の結果を見較べることで、初めて分かることがあった。すべての教

員のデータを見れば、1つ1つの授業の結果だけでなく、自己の授業の相対的判断、大局的な判断ができる。現状では、一部の委員だけがデータを知ることができるのは、逆に不公平でもある。

・お互いに切磋琢磨してよい[良い]授業をするのは当然のことです。
・改善に寄与すると考えられるため。
・学生による授業評価は別に隠すことではない。
・公表しない理由はない。
・問題点が明らかになるから。
・授業評価システムを取り入れたアメリカなどでは、HP上で教員に関する評価が見えるようになっているのでは？本気で改善を促す気があるかないか、どこの大学が本気でそうした取り組みを前向きに進めるかだと考えます。公表反対の声として、そもそも授業評価を学生がきっちりとしていないという先生方の声も聞かれます。評価もできない学生と[を]作っていること、そうした学生が受講し続けているとしたら、そのことも大きな問題です。
・他の先生に[の]授業評価を知ることによって、自分の授業の参考にしたい。
・他の先生方と比較して自分の授業のやり方を反省し見直す事ができる。
・授業評価は担当教員の品定めではない。教員によっては講義技術の差はあるだろうし、さらに講義内容とも関係する。単純の[な]学生の回答をそのまま受け取るわけにはゆかない。教員が単純に自身の評価・批判として、敏感に敵対的な反応をするのはみっともない。教員がどのような考えをもっているかを示すのがシラバスやFDレポートであるなら、授業評価は学生サイドの意見である。それらの情報を互いに共有する意味において授業評価は公開されるべきであろう。その上で、学生の要望を受け入れないのならそのように学生に回答すればいいし、改善すべき点はそのことを公言すればいい。特に、学生の意見を公開すれば、匿名性に[を]いいことに憂さ晴らし・誹謗するだけの愚かな意見を回答する学生も減少することが期待できるのではないか。子供じみた回答を公開することと併せて、学生に批判であっても建設的な回答をするように要求すべきであろう。まあ、教員のFDレポートでも“ゴルフの打ちっぱなし場をつくれ”などと、アホな回答をするのもいるわけだし、こちらも学生に公開すべきである。
・改善へのインセンティブとなるから。評価方法を含め、新たな議論をはじめるための材料となるから。
・自分のclassの反省になる。
・比較することにより改善できる。
・一応「公表した方がよい」としておくが、公表に向けた合意を慎重に取ってゆくことが望ましいし、公表することでどういうメリット、インセンティブがあり、公表しないことでどういうデメリットが付いてくるのか、を明確にしないと、公表結果だけが一人歩きすることで、却って真面目で意欲のある教員が、一部の不心得な学生の軽率なコメントで意欲を無くしたり、「真に学生本位の厳しい・学生から観れば退屈でも科目から観れば重要である授業」が出来なくなる恐れは常に意識しておかなければならないと思う。その意味では、「公表の仕方」も詰めた議論をしなければならないだろうと思う。
・アンケート結果を公表しないのに、アンケートを学生に強いるのはおかしい。他の先生の評価と自分の[評価と]を比較することで、どこを改善すれば良いか明らかになる。

・アンケートを実施した以上、結果を学生に公表することは当然と思います。
・学生に協力を依頼する以上、その結果を公表するのは当然のことである。
・学生による授業評価のアンケート等に対して学生はアンケートで改善事項等を記載するが、全然改善されないなどの意見を出している。従って、教員は学生に我々が如何に改善・工夫しているかを知って欲しいため。
・学生たちも、他の学生たちがどのような意見を持っているのか知りたいということもあると思う。教員も他のクラスのものを読んで参考にできる部分もあるかも知れない（学生がまじめに書くという前提で)。
・公表することで他者からのアドバイスを得やすいことが１つ目の理由です。また、他者の授業評価でどれくらい学生から好評・不評があるのか観察することで、自分の講義の難易度を調節できることが２つ目の理由。そして、学生に対して誠意ある対応を大学側が取っていることをアピールできることも重要な理由です。
・ただし、公表にあたり学生の授業評価も記名式に改めることを前提とする。学生の授業評価を分析すると、明らかにまじめに回答していない事例がある。学生自身の学習姿勢と関連させて、授業評価が実施できれば、公表されても異議はない。相互に厳しい議論のできる環境での公表であれば、意味があると考える。

●【反対】
・公表する必要はない。授業評価の結果を改善につなげる主体は、授業者本人であり、第三者に公表し第三者に圧力をかけられて初めて授業改善するような授業者であっては情けない。
・大学の授業にはさまざまなタイプのものがあります。そのことを考慮せずに同一の物差しで計ることにはもともと無理があると考えます。また、学生の評価姿勢には著しく客観性を欠く場合があります。学生自身がどんな尺度で評価すべきなのかわかっていないのだと思います。「評価」である以上、できるだけ冷静かつ客観的な姿勢が求められるはずです。その客観性を担保できていない状態で公表しても数字が一人歩きするだけだと懸念します。どうしても公表するという場合には、授業のタイプや分野によって設問をそれぞれに適切なものに変え、分野ごとの評価にすべきであるのと、学生の側の客観的な評価姿勢をどのように担保するのかをはっきりさせてからにしてほしいと思います。
・結果として、学生に迎合した授業をせざるをえなくなるでしょうね、といっても、いずれやるのでしょうね。文科省の手前もあるし、「結果を改善につなげる」ことと「公開」することに関連があるとすれば、「おどし」の意味合いであろう。個人的には、割と評価は良いので、どちらでも良いが、公開すれば、殺伐とした授業環境が生まれることは確かである。日本の文化にはなじまない、何から何までアメリカのマネをしなくても良いのではないですか？
・毎回多くのアンケートに回答している学生の話を聞くと、いい加減に書いている面があり、データの信頼性に欠けると考えられる。
・他大学の公表してあったものを見たが、中には、学生によるひどく中傷的に書かれているものもあったので、まれにではあるかもしれないが、全部そのまま公表するのは、大学問題になりうる可能性がある。
・学生の人気取りや評価ばかり重視する講義が増えるから。

・学生の機嫌や評価ばかり気にする講義が増えるから。
・公表することが必ずしも授業改善に結びつかない。学生による評価が必ずしも的を得て[射て]いるかどうか疑問である。
・「学生による授業評価」の回答を見ると、どう見てもおざなりに記入しているとしか受け取れないものも多く、全面的に集計（数字）を信用してはいなし。かと言って、まったく信用しないと言うわけではなく、芳しくない数字についてはやはり改善方法を考えるので、現状で十分「学生の授業評価」はその役割は果たしていると思っている。
・学生の評価に妥当性があるとは思えない。
・教員に対するプレッシャーが大きすぎるように思います。
・公表するという手段が、要求に応える方策ではないので。
・学生の記述は既に教員に伝達されているのですから、公表と改善の相互関係は成り立ちません。もし特殊に問題のある教員がいるなら、共通教育部から直接改善を要望すべきでしょう。公表は、授業について得点競争的な誤った考えを生みかねません。
・「学生による授業評価」は矛盾点があり、真正でないことがあるため、効果が期待できない。改善は教員自身及び教員間で行い、その際学生との討論・議論を参考にすること。
・公表することがどのように授業の改善につながるのか、教えていただきたい。とくに、学生が公表結果を知ると、それがどのように授業の改善につながるのか、教えていただきたい。通常のアンケートとは異なり、当初から公開を承知してのアンケート同意ではなかった。アンケート結果を担当教員は承知しているのであり、それをさらに公表する（それも、学生に対しても！）ことの意味が分からない。教員の授業改善につながるよりも、学生の易きに向かう人気投票に堕する危険を感じる。私の場合、毎回板書が拙いことを学生に指摘してもらうが、その結果を公表することによって板書方法が改善されるとは思われない。むしろ、板書の上手な教員を紹介してもらって、その授業参観を勧められるとか、その人に講演等何らかの指導をしてもらう方が効果的であるように思う。
・学生による授業評価はあくまでも、担当教員による授業の質の向上に役立てるべきであって、公表することは、担当教員の授業設計に対する意図を無視して取り扱われる恐れがあり、教育の質の向上につながらないと考えられるため。
・アンケートの精度が不十分である。公式に公開するならば責任ある回答を求めるために、記名方式で実施時間も授業時間を喰わない形で一定とし、担当教員ではない第三者が行うべきである。
・学生のニーズに答える[応える]事は重要でありその意味でアンケートは必要であるが、私は学生の評価と講義の質が一致しているとは考えていないので、そのずれがある以上公表すべきではないと考える。
・学生からの評価は必要なことであるが、このようなものを公表すると、授業そのものが学生の人気取りに傾く危険性がある。また学生のレベルに合わせるのも必要なことであるが、学生のレベルに合わせすぎると、教師に必要なレベルの専門性に到達しないことが多々ある。レベルをあげると、難しすぎると学生からの評価は低くなる。教員に努力させる効果は確かにあると思うが、マイナス面も大きいと思われる。
・現状では、回答が無記名のため責任ある評価がなされているか不明である。

・共通教育部長に何度も申し上げてきたことですが、実際の受講生を無視した、極めて限定された受講生だけを対象にしたアンケート自体に、科学的学問的根拠はなく、無意味ですし、「百害あって一利無し」だと考えます。
・受講生には公表すべきであるが、個人的内容の外部への公表は必要ない。自由記述欄は特にしなくてもよい。ほとんどのものが建設的意見ではないので。
・受講生には公表するほうがよい。学外へは個人のデータでない場合も公表してもよい。自由記述欄は公表すべきではない。ほとんどが建設的な意見ではないので。
・公表する意義が明確でない。
・授業評価の結果を改善につなげられるかどうかは、結果を公表するかどうかとは関係が無いと思うからです。むしろ、そのようなやり方では、改善とは逆の方向に結果を導く可能性すらあるのではないか思います。
・アンケートが「殴り書き」でも矛盾しないような項目になっており、改めるべきである。「満足度」とか主観的な内容を省くか、あるいは入れたとしても、何に満足（不満）であったか推測できる具体的項目が必要である。
・一般アンケートのほかに、教員自身がアンケートを作成する。両者を対比し、食い違う点を分析し、授業の改善に役立てる。殴り書きでも矛盾がないように仕組まれているアンケートでは、何度とっても意味がない。学生の要望は聞かねばならないが、それを漠然と受け止めて、流される傾向は望ましくない。
・教員個人の反省点の資料なので、公表して何の意味があるのか。
・調査項目の妥当性・信頼性に問題があると感じられるため。
・現段階では公表をしたとしても、そのデータがどのように使われるかが明らかになっていないので、その効果も期待できない。方向性をあきらかにしてから公表すべきである
・公表したデータをどのように使うかが明らかになっていないと、ただの公表に終わってしまう。方向性を明らかにした上で公表すべきである。

●【どちらとも言えない】
・誹謗中傷を含んだ不適切なコメントに対して、適切な対処をする・回収は当該教員の手に委ねない(廃棄や改ざんの恐れがあるから)という条件が満たされるのであれば、公表してもかまわないかもしれないが、公表することにより、授業評価アンケートの結果を、学生・教員ともに過度に重視する風潮が出てこないかも心配である。学生による授業評価は、授業改善のための有効な一手段であることは認めるが、あくまで「手段」でしかないのも事実であり、あまりにその評価を気にしすぎるのも、教員に対する心理的な萎縮効果を生み、かえって教育への悪影響があることも考えられる。
・数値の意味を解釈できるのは担当教員だけであるから。

◎【授業評価結果の公開に関する教員アンケート集計結果を承けて；試案的考察と提言】

今後の議論のあるべき方向性を見極めるためのヒントとしては、上記の種々に渉る意見を熟読吟味して貰うことが肝要かと思われるが、以下に敢えて若干の試案的考察を掲げて参考に供したい。

授業評価結果の公開に反対する意見の多くに共通している「問題点の指摘」や「危惧或いは違和感の表明」は、教育（研究）のプロを自認する教師としては至極当然のものであることは否めないし、又、全てが成果主義や効率主義によって均され変質しかねない傾きの強い、昨今の組織としての大学の在り方に対するアンチ・テーゼとしても十分傾聴に値するものであることを、先ず指摘しておきたい。しかし、その上で、「研究」機関としての大学の使命如何ということは一先ず措くとしても、「**教育**」機関としての大学の在り方は、その対象であり受け手でもあるところの個々の学生の希望や意向を全く無視しては抑も成り立ち難いものである、という認識が、「冬の時代」と言われる今こそ教育サービス提供者側の大学或いは教員に求められているのではないだろうか？

所謂「下からの評価」（或いは、「内からの評価」と言うべきか）を取り入れ、それによって教育方法等の改善を図ってゆくことが、ひいては研究・専門優先で押し潰されかかって形骸化しつつあるという報告すらなされている法人化後の旧国立大学における教養教育の自立[自律]とそれに携わる者達の存在意義や地位保全にとっても極めて重要となってくるのであり、受け手が満足する教育（内容）を授けることが、「**教育**」機関としての大学の本来的な使命の重要な一つではないだろうか？

この脈絡において、現実に実施されている授業とそれを受講し何ものかを学んでいる（筈の）学生達（及び、敢えて付け加えれば、その保護者）が、大学教育に何を求めているのか、或いは、どうすれば彼らに本学での教育（内容）に満足して貰えるのか、ということに、過度にではないが敏感に反応・対応してゆく姿勢表明として、授業評価結果の公開[公表]ということも前向きに検討されるべき時期に来ているのではないかと思う。様々な外部評価への対応に勝るとも劣らない、大学が社会に対して負っている責任を遂行してゆくことの大切さに、改めて大学構成員は思いを致すべきではないだろうか？

第6章　本調査の今後の課題

平成16年度以降積み重ねてきた授業評価アンケートのデータ分析から観ると、17年度後学期の報告書においても総括した通り、共通教育への学生の評価はこの2年半（特に17年度以降の3学期分）に関しては緩やかながら上昇傾向にあり、成果は確実に上がってきているとは言えるだろう。そして、このことは、これも繰り返しになるが、各教員のFDへの取り組みの成果であり、又、本調査を初めとするFD緒活動が次第に制度として定着してきていることの證しでもあろう。

18 年度は、本アンケート調査の更なる改善と新たな進展の端緒になることを目指して、従来からの調査に加えて新たな取り組みも委員会で検討した上で実施に移された。一部試行的ではあったが Web による授業評価アンケート集計も実施したし、従来学生から批判と要望が出ていた授業評価結果の公表についての是非とその方法に関しても、直接担当教員に問うて方向性を見定めようとした。こうしたことを通じて今後も議論と試行を重ね、より良く・より有意味な「学生による授業評価」と「教員の FD 活動」を推進し、学生が、時間と労力を使って受講した種々の科目において、「履習して好かった・満足した」、「未知の事柄を学ぶことが出来て知識や見識が増して良かった」、「更に深く学ぶ意欲が沸いた」等々といった**充実感**と**満足感**を味わい、高等学校までとは一味も二味も違った、ある意味「大人の学問」のとば口に立つことが出来、ひいては、たとい専門の学問を目指して入学してきたのであったとしても、「行きがけの駄賃・思いがけない拾い物」に類する程度であっても、結果的に共通教育科目を履習して良かった・専門教育では得られない人間教育に資する内容を学ぶことが出来た、という実感を持って貰えるように、教養教育の一層の充実を図ってゆく必要性にはこれまでと何ら変わるところはないのだ、という揺るぎない前向きの姿勢を大学人としても持たなければならないのではないだろうか。

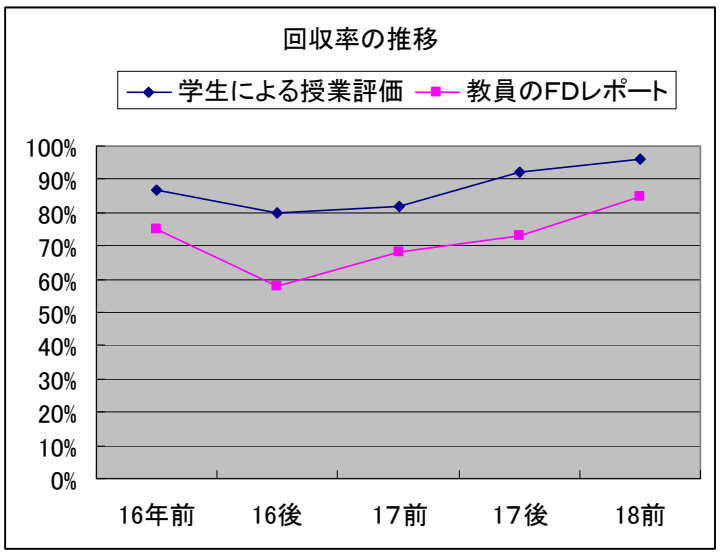
具体的には、引き続き次の 2 点が今後の課題としてあげられるであろう。

（1）回収率の向上を図る手立ての具体化

第一の課題は、更なる回収率の向上を目指す為に、具体的な手立てを講じることへの大方の理解と賛同を得て、これを実行に移すことであろう。参考までに、今回報告した 18 年度前学期分まで過去 2 年半の回収率の表を再録すると次の通りである。

	学生による授業評価	教員のFDレポート
平成 16 年度前学期	87%	75%
平成 16 年度後学期	80%	58%
平成 17年度前学期	82%	68%
平成 17年度後学期	92%	73%
平成 18 年度前学期	96%	85%

また、これをグラフで表すと以下のようになる（再録）。



回収率の一層の上昇をもたらす具体的手立てとして、17年度後学期の報告書において指摘しておいた一つが、「段階的な評価結果の公開を目指す」ということであった。このことには18年度に着手したが、前章で示したように未だに方向性への結論は見えていない。しかしながら、基調としては、拙速は避けながらも前向きに議論を収斂させてゆく努力は続けなければならないだろう。又、授業評価が100％に近い数字になったことで、評価を実施していない科目・教員が逆に目立ってくるのは当然であり、評価結果が回収できていない少数の教員の殆どは主観的・客観的を問わず何らかの理由で、協力する意志が元々ないのではないか、ということも疑われるのである。そうなると、回収率向上の手立ても最早これまでの様な一般的・万人向きなものでは見込みがないのかも知れず、今後は「そもそも100％でなければいけないのか？」という根本的な点も含めて再検討する必要もあるであろうし、100％が望ましいとなれば、授業評価等に対して消極的な教員と評価に係わる委員会等との直接対話も当然必要になってくるであろう。又、その結果として価値観の転換まで迫る要請をせざるを得なくなるかも知れない。前章末でも触れたが、抑も本来、授業方法等の改善が、教養教育の受け手である学生のために、より良い教育サービスの提供を目指すものだとするならば、そこに関わる教員の教育改善に彼らの声を反映させることは理の当然とも言えることなのである。敢えて言えば、このことは、教員の側から観て、決して学生の声に迎合したり、戦々恐々として卑屈になったり萎縮したりすることの必要性を含意せず、唯々、学ぶこと・知ることを求めて門を叩いている学生達に、真摯に向き合って後生を教え育てることこそが、本学の様な大学に今求められている生き（残り）方・在り方であり、たといそこまでの学・知への動機がない学生であっても、だからこそ、彼らの蒙を啓き、21世紀を生き継ぐために必要な「教養知」を是非にも身に付ける必要があることを覚らせ、同時に大学教員としてもその獲得の手助けが出来る慶びを味わうことは必要なことなのではないであろうか？

次に教員のFD活動レポートに関しては、FD活動の項目に自分の妥当な活動として選択するものがない、あるいは「その他」を選択して自分の工夫を具体的に書くという場合も少なくないと思われるが、既に高得点を常時維持している教員の場合、それほど継続的なFD活動報告は必要ではないかもしれず、その向きには繰り返しFD活動レポートを提出する意味にも少しく疑問を感じるところがあろう。実効性を考えると、授業評価結果が常時はか

ばかしくない教員に直接FD活動を促すことの方がより必要であるように思われる（尤も、そのような教員こそ、こうしたことを嫌がる傾向があるであろうし、他教員の授業参観等を促したところで余り効果がないかもしれないが）。この辺りのことを今後真剣に詰めて議論をし、大学として実効性のある授業評価及び教員のFD活動評価を実施してゆく方策を編み出してゆかなければならないだろう。

上記とも絡むことだが、第二の具体的手立てとして前年度後学期の報告書において指摘した点は、広い意味でのインセンティブの導入であった。この点は、法人化後の厳しい財政的状況の中で、ともすると専門教育に押し潰されそうにもなっている全国の旧国立大学法人に共通する難問であるが、本学もその例外ではない（国立大学協会 教育・研究委員会『国立大学法人における教養教育に関する実態調査報告書』［平成 18 年 10 月 31 日］参照）。「全学出動」という言葉とは裏腹に、教員間でも専門教育に比べて教養教育に対する熱意は未だにそれ程高くはないと言わざるを得ない。相変わらず、予算面でも人事面でも、かつての一般教養時代とそれ程変わらない、教養教育を一段低く観る傾向は、主に専門学部・大学院担当の教員に多く観られるのではないか？各教員が自分の胸に手を当てて正直に己の本音を確かめてみれば良く分かることであろう。本来教養教育を担当する人間は、大学教育における「教養教育」というものの位置と意義を良く理解し、正に自由な市民としての、職業に直結した専門教育の授けようとする知識・技術とは違った、人間としての素養・教養を授けようとする"Liberal Education"に理念と情熱を持つ者でなければならない。それは、「インセンティブ」といった「飴玉」や「ご褒美」が貰えるからやる、貰えないからやらない、といった低次元で言々されるべきものでは本来ない筈である。しかしながら、良い教育には人材と共に金も掛かるのであり、教養教育が専門教育の下請け的存在に甘んじさせられて、それに相応しい処遇を受けないというのも、フェア・プレイの精神から言っても妥当なことではないであろう。今よりは遙かに相応しい待遇を付与することで、或いは専門課程に眠っている人材を呼び出してきたり、或いは又、大学外の優れた人材をも活用して教育カリキュラムの充実を図ったり、現在携わっている人員にも一層明るく元気に授業改善に取り組む意欲を与えるためにも、「呼び水的インセンティブ導入」は必須の施策であろうと思われる。

（2）自律的授業改善・教育方法等改善の意義の再確認と教育機関としての在り方

これも前回の報告書で指摘した点であるが、調査が、唯々回収率を向上させるだけの日常茶飯化してしまい、「やっています、の証拠作り調査」に終始しているとすれば、それは甚だ不健康な状態であると言わざるを得ない。経緯から言えば、確かに外圧による「嫌々の授業評価アンケート」で始まったこととはいえ、今やより良い大学教育は如何にあるべきか、という視点から、調査の必然性と意義を共有すべき時代に入ったと言えるのではないだろうか？しかし、授業評価のアンケート調査や教員の FD 活動報告を、内発的動機ではなく外発的な押し付けと捉える観方は依然として残っており、その観方の妥当性も完全には否定できないものであろう。従って、それが完全に後ろ向きで考慮に値しないナンセンスな考えだと一蹴できるものでもない。組織がシステムや制度として動いて行く場合、ともすると時代に逆行する考えや少数意見は封じられ・抹殺され勝ちである。法人化以降のトップダウン方式の種々の利点は認めるとしても、余りにも画一的・上意下達式に全てを一元化したり、マニュアル・自動化したりする過度の傾向に対しては、教養教育は正に人格形成の

為の人間教育として、「多様な価値観や考え方を許容する物の観方」を大学教育の中で担保する重要な位置を占めるものではないだろうか？「佛作って魂入れず」ということにならないためにも、長い人類の営みの中で洋の東西を問わず「不易」と考えられ大切にされてきた、「人としての価値観」を教えず・授けずして、何が高等教育機関だと言うのであろうか？

平安末期の歌謡集『梁塵秘抄』の中の「遊びをせんとや生まれけむ/戯れせんとや生まれけん/遊ぶ子どもの声きけば/わが身さへこそゆるがるれ」（巻第二：359）を引くまでもなく、又、ローマの詩人ホラティウスの「読み手を喜ばせつつ教えることで、実益と愉しみをこき混ぜる者が賞賛を手に入れるのである。」（"He wins every hand who mingles profit with pleasure, by delighting and instructing the reader at the same time."---Epistles, bk. III, *Ars Poetica*）を事々しく援用するまでもなく、学ぶことも教えることも、又、学ぶ者の姿を見て「楽しからずや！」と教える側までが嬉しくなってくることも、共に遊びに似た楽しみや愉しみであり、又、本来「教」や「学」とはそうあるべきでもあって、大学が本当の意味での「学びの舎・学びの杜」になるためにも、地に足の着いた「我--汝」的関係に立脚した本来的「人格教育・人間教育」にもう一度目を向け直し、真剣にそういう環境を整える必要がありはしないか？その為の自発的・自律的授業改善・教育方法改善に努めてゆくしか、人類の知的遺産を正当に継承してゆく人材養成は決して出来ないのだ、ということを最後に声を大にして述べておきたい。

今後の課題

（１）授業評価・ＦＤレポートの回収率の向上を図る手だての具体化に更に取り組む。

（２）自律的授業改善・教育方法等改善の意義の再確認を真摯に行い、それに基づいて大学の「教育機関としての在り方」を再確認する。その上で、あるべき「人格教育・人間教育」としての教養教育を全学的に認知されたものとする努力を続ける。

共通教育部自己点検･評価委員会委員

（平成 18 年度）

足　立　　勝（農学部）
井　上　修　一（教育文化学部）★
◎甲　斐　重　貴（農学部）
加　藤　貴　彦（医学部）
川　村　　修（農学部）★
武　方　壮　一（大学教育研究企画センター）
玉　江　和　義（教育文化学部）
西　脇　亜　也（農学部）
廿日出　　勇（工学部）
松　尾　雄　二（教育文化学部）
○南　　太一郎（教育文化学部）★
村　岡　嗣　文（教育文化学部；共通教育部長）
山　本　直　之（農学部）★
湯　井　敏　文（工学部）

（◎は委員長　○は副委員長）
（★は 18 年度前学期報告書作成 WG）

＊尚、授業評価に係る作業データの処理等には、大教センター　武方委員にこれまで同様多大な尽力を賜った。特記して謝意を表する。